



千歳市観光振興プラン

令和4年5月

目次

第1章 千歳市観光振興プラン策定の趣旨

1.プラン策定の目的／2.プランの位置づけ／3.プランの期間／4.プランの目標値(KPI)／5.プランの推進に当たって	02
---	----

第2章 観光の動向と千歳市の課題

1.観光の動向	(1)国内における観光動向	03
	(2)千歳市内の観光の状況	04
2.前計画(千歳市観光振興計画:平成23年度～令和2年度)の総括	(1)基本コンセプト	17
	(2)計画指標の推移	17
	(3)基本目標	17
	(4)施策の柱	17
3.千歳市の観光の現状と課題背景	(1)千歳市の観光の現状	19
	(2)千歳市の観光課題背景	20
	(3)課題整理と取り組むべき基本的方向	23

第3章 千歳市観光振興プランの基本的な方針

1.観光の将来像	24
2.基本的な方向と施策の展開	24

第4章 施策の展開

1.ウィズコロナなど時代背景に合った観光振興	(1)安全で安心して楽しめる観光事業の創出	25
	(2)「観光地経営」の視点に立った人材の育成、経営体質の強化	25
2.地域資源を生かしたツーリズムの創出	(1)アドベンチャーツーリズムの推進	26
	(2)グリーンツーリズムやスポーツツーリズムなどの各テーマの展開	26
	(3)支笏湖地区の食、温泉などの豊富なコンテンツを高付加価値化	26
	(4)道の駅サーモンパーク千歳の観光拠点化、広域観光ルートの創出	27
	(5)滞在型観光の促進	27
	(6)サステイナブルな観光の推進	28
3.観光客の受入環境整備と誘致宣伝活動の推進	(1)交通の利便性や宿泊施設の集積を生かした魅力づくり	29
	(2)国内外観光客に対する案内・通信機能強化	29
	(3)フィルムコミッションなどによる誘客促進やSNSなどを活用した情報発信	29
	(4)災害等に備えた受入環境の整備	29

資料 アンケート調査結果、策定懇話会、前計画の個別施策の取組結果	30
----------------------------------	----

第1章 千歳市観光振興プラン策定の趣旨

1. プラン策定の目的

千歳市観光振興プランは、千歳市が有する特性や優位性を生かした魅力ある観光地づくりを進めるため、千歳の観光が抱える課題や、今後の観光振興の基本的な方向性、具体的な施策を内外に示し、観光関連機関・団体や事業者、市民の方々と連携しながら、観光振興による地域経済の活性化に取り組むための指針として策定するものです。

近年は旅行形態や観光客のニーズが多様化しているほか、新型コロナウイルス感染症の影響により観光需要が急激に減少するなど、観光を取り巻く環境は大きく変化していることから、ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、これらの変化にも柔軟に対応する中期的なプランとします。

2. プランの位置づけ

本プランの策定には国の「観光立国推進基本法」や北海道の「北海道観光のくにづくり行動計画（令和3（2021）年度～7（2025）年度）」などと整合性を図りながら、千歳市のまちづくりの指針となる千歳市第7期総合計画の下、観光分野での具体的な取組を示す個別計画として策定します。

3. プランの期間

本プランの期間は、令和4年度から令和7年度までの4年間とします。

プランの期間内に
予定されている
大きな出来事

令和4年度（2022） 第39回全国都市緑化北海道フェア開催
北海道ボールパークFビレッジ及び新球場開業
令和5年度（2023） アドベンチャートラベル・ワールドサミット北海道開催
令和7年度（2025） 大阪・関西万博開催

4. プランの目標値（KPI）

	観光入込客数	市内宿泊者延べ数	観光消費額
令和3年度	1,248,700人	216,100人	12,573円
令和7年度	2,860,000人	240,200人	15,000円

5. プランの推進に当たって

本プランに掲げる観光振興の基本理念や施策の展開に基づく各取組を着実に推進していくため、市と千歳観光連盟が中心となり、事業者や団体、市民と連携しながら各々の業務や活動の中で課題把握や情報共有に努め、具体的な事業の検討やプランの進行管理等を行います。

第2章 観光の動向と千歳市の課題

1. 観光の動向

（1）国内における観光動向

①新型コロナウイルス感染症による観光需要の激減

令和2（2020）年1月以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、国などは、水際対策の強化、イベント中止等の要請を行ったことに加え、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出等により、外出自粛や休業要請などの、感染拡大防止に向けた取組を進めました。緊急事態宣言等の解除以降は、感染拡大防止を図りながら社会経済活動の水準を引き上げる取組を進める中で、政策支援によって需要の下支えを図っています。観光については、移動の制限や旅行控えの動きが生じ、需要が大幅に減少するなど非常に厳しい状況が続いており、コロナ禍での取組やアフターコロナを見据えた施策の展開が求められています。

②新型コロナウイルス感染症からの回復に向けた観光需要喚起の取組

コロナ禍において、国は感染防止策を日常に取り入れた「新しい生活様式」による行動変容を進めており、観光需要の回復のため「GOTOトラベル事業」を展開し、北海道においても「新北海道スタイル安心宣言」を実践する観光事業者を対象として「どうみん割」などの誘客支援策に取り組んでいますが、感染収束が見通せない中、実施に際しては感染状況を踏まえた中止・延期を繰り返すなど難しい対応が求められています。

③新型コロナウイルス感染症による観光需要の変化

感染症の影響により、インバウンド需要^{※1}がなくなり、国内旅行消費は「少人数化」、「短期化」、「近距離化」の傾向にあり、日帰りで住まいの近くを楽しむマイクロツーリズム^{※2}の需要が高まっています。また、団体旅行から個人旅行への旅行形態の変化や、「モノ」消費から「コト」消費^{※3}へとニーズの多様化が進んでいます。コロナ禍によるテレワークの拡大や働き方改革とあわせた新しい旅行形態である「ワーケーション」も注目されており、地域の自然・文化を体験する旅のスタイルである「アドベンチャーツーリズム」もインバウンドを中心に人気が高まっています。

④SDGsへの貢献と、持続可能な観光の推進

令和3（2021）年6月、日本政府観光局（JNTO）は、「SDGsへの貢献と持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）の推進に係る取組方針」を公表しました。コロナ禍を受けた世界の旅行者の持続可能性（サステナビリティ）に対する意識の高まりも踏まえ、「地域の『環境』を守る・育む」、「地域の『文化』を守る・育む」、「地域の『経済』を守る・育む」サステナブル・ツーリズムが求められています。

⑤観光コンテンツの高付加価値化の取組

国の「観光ビジョン実現プログラム2020」では、「反転攻勢に転じるための基盤の整備」の重要性が挙げられました。失われた観光需要を回復していくためには、地域産業と連携し、高付加価値、誘客多角化のための魅力的な滞在コンテンツの磨き上げが必要です。

※1 インバウンド…外国人が訪れてくる旅行のこと

※2 マイクロツーリズム…自宅から1時間から2時間圏内の地元または近隣への宿泊観光や日帰り観光

※3 コト消費…物を所有することに価値を見出す消費傾向（モノ消費）に対して、商品やサービスを購入したことで得られる体験に価値を見出す消費傾向

(2) 千歳市内の観光の状況

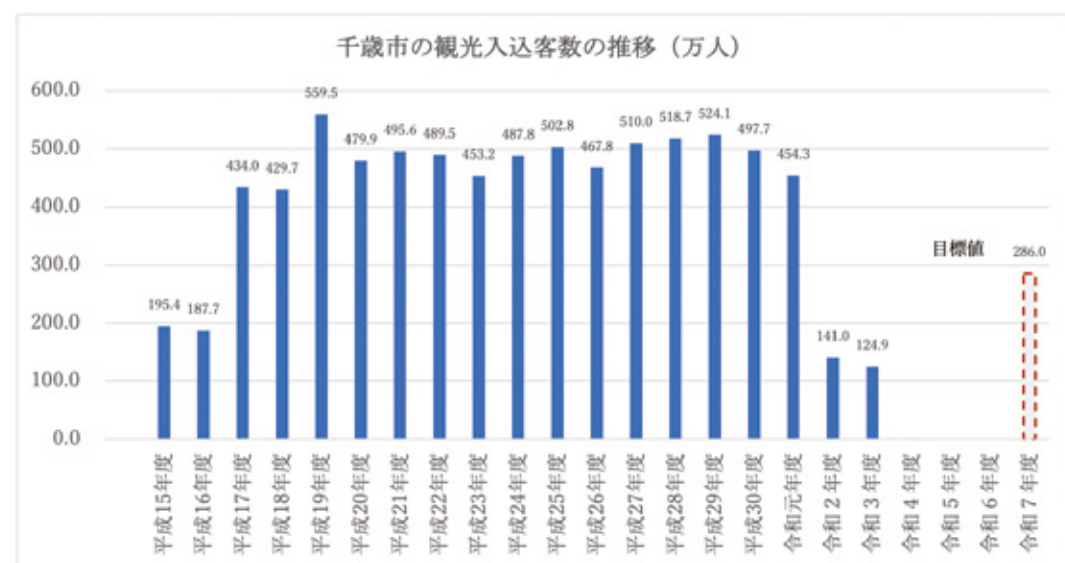
① 千歳市の観光に関する数値の推移

I. 千歳市における観光入込客数等の推移

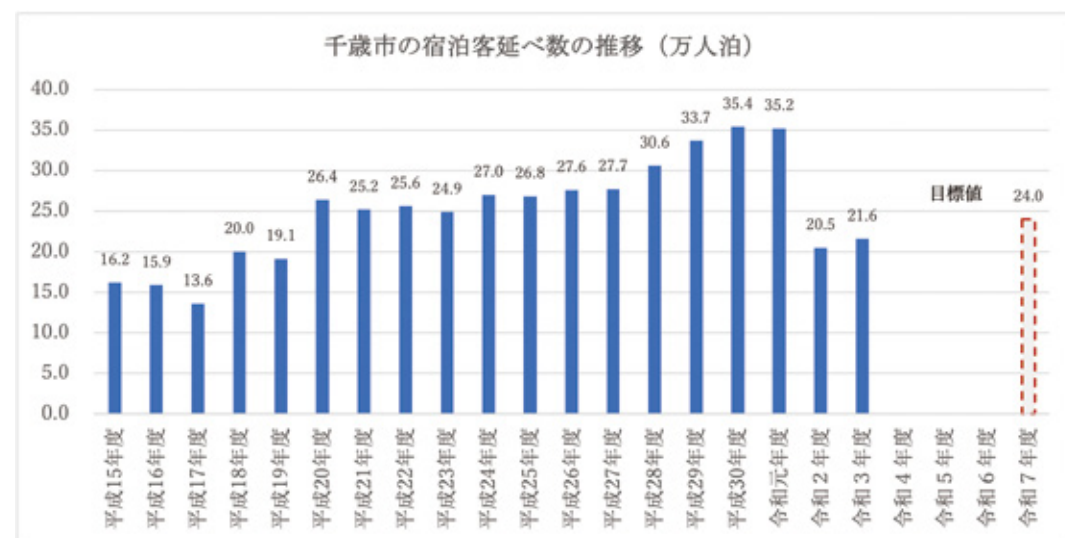
千歳市における観光入込客数は、平成17(2005)年度のアウトレットモール開業、平成19(2007)年度のアウトレットモール拡張のタイミングで大きく増加しています。平成19(2007)年度の559.5万人がピークで、その後は500万人前後で推移し、令和元(2019)年度の入込客数は454.3万人でした。

千歳市における宿泊客延数は、平成18年(2006)度以降増加傾向にあり、平成28(2016)年度に30万人泊に到達、平成30(2018)年度の35.4万人泊がピークとなりました。外国人宿泊客延数は、新千歳空港への国際線就航路線数が増えるにしたがって増加し、令和元(2019)年度の21.6万人泊がピークとなりました。

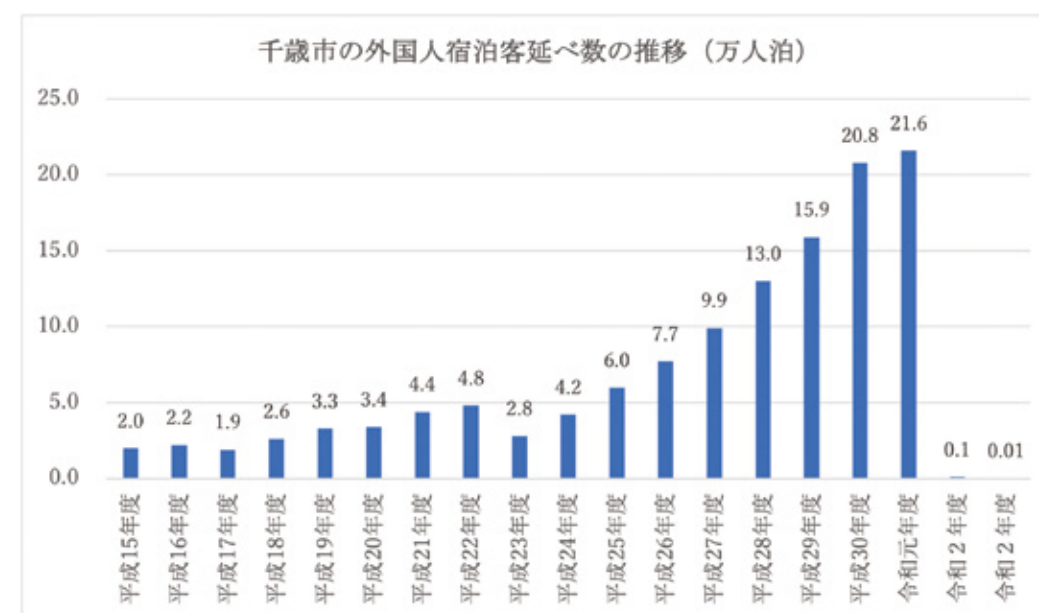
新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて、千歳市の観光入込客数、宿泊客延数は大幅に減少しており、令和2(2020)年度の状況を見ると、観光入込客数は約69%減少、宿泊客延数は約42%減少、外国人宿泊客延数では約99%減少となっています。



資料：『北海道観光入込客数調査』（北海道）



資料：『北海道観光入込客数調査』（北海道）



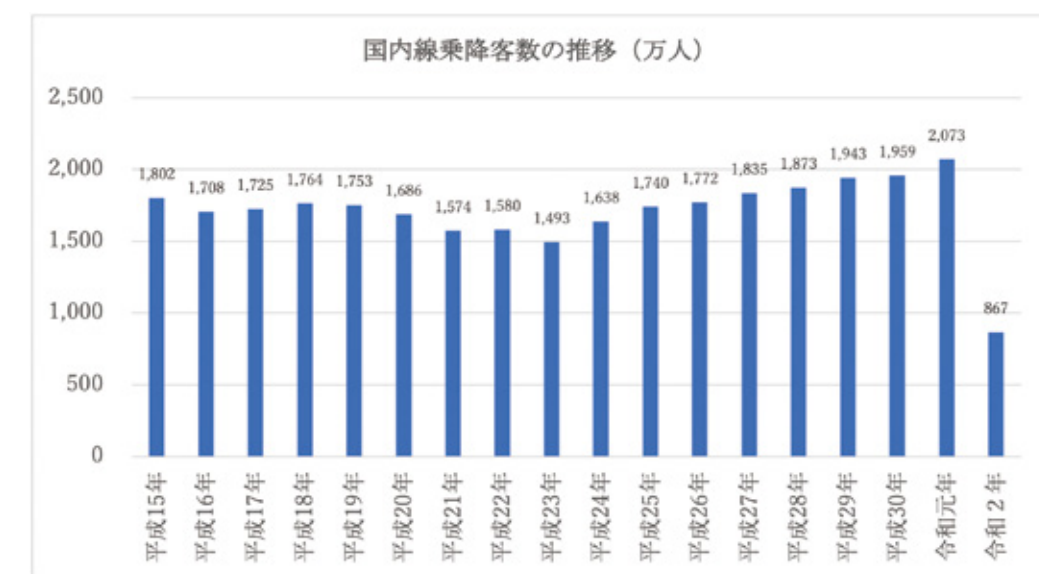
II. 新千歳空港の乗降客数の推移

新千歳空港は、2本の3,000m滑走路を有する北海道における国際航空の拠点であり、国内における基幹空港であります。平成6(1994)年には日本初の24時間空港として運用を開始し、平成22(2010)年3月26日には国際線専用のターミナルビルが運用を開始しています。

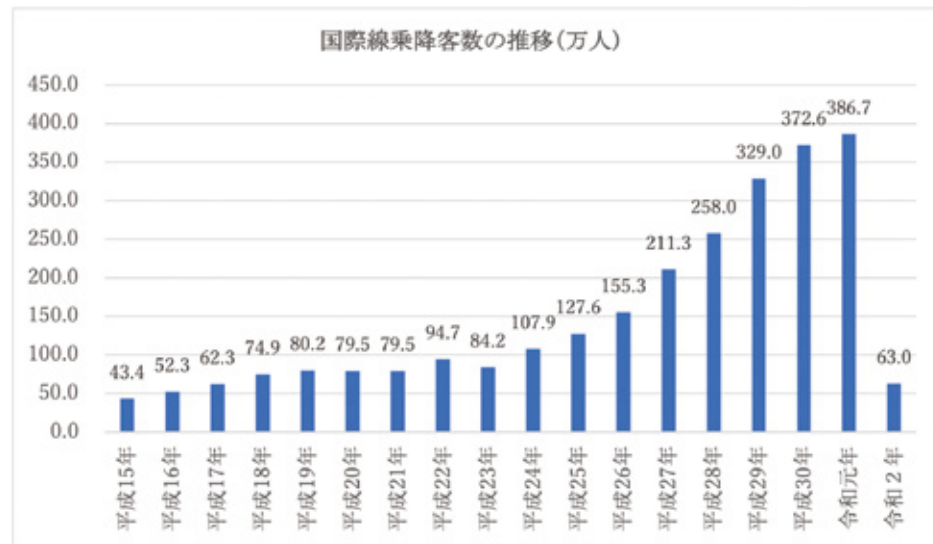
景気低迷や災害などの影響により乗降客数が減少となった時期もありましたが、令和元(2019)年度の乗降客数は、国内線・国際線を合わせて約2,460万人となっています。特に、国際線乗降客数の増加は著しく、令和元年度は386.7万人となっています。

しかし、令和2(2020)年に入ってから新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、国内線・国際線ともに乗降客数は大きく減少しています。

今後、新千歳空港を含めた道内7空港が北海道エアポート株式会社による一体的な運用が行われるようになり、空港の施設整備だけでなく、道内他空港と連携した活用による利用客増加が期待されています。



資料：『空港管理状況調査』（国土交通省）



資料:『空港管理状況調書』(国土交通省)

②千歳市内の観光資源の特徴

市内の観光地は、支笏湖地区・市街地地区・農村地区の3つに大きく分かれています。



I. 支笏湖地区の主な観光資源・施設

支笏湖地区は、支笏湖を中心とした自然景観と温泉に恵まれたエリアです。



I_1.支笏湖

支笏湖は、支笏洞爺国立公園に属するカルデラ湖で新千歳空港や札幌市の近くに位置しています。最大水深360m・平均水深265mは、国内では秋田県の田沢湖に次いで2番目の深度を誇ります。

水質においても、平成30(2018)年度の公共用水域水質測定で最も水質の良い湖として評価され、11年連続日本一となっています。

湖の中を見ることができる遊覧船からは、柱状節理など国内屈指の透明度を誇る支笏湖ならではの水中景観を楽しめます。

毎年1月下旬から2月中旬にかけては、支笏湖の湖水を噴霧し制作した水像が幻想的な雰囲気醸し出す「千歳・支笏湖水濤まつり」が開催されています。

平成18(2006)年度からは、動力船の乗り入れが規制されており、豊かな自然に加えて静かな竹^{たけ}まいも貴重な財産となっています。

支笏湖に生息するヒメマスは、平成8(1996)年に市の魚として指定され、「支笏湖チップ」の愛称で親しまれています。毎年6～8月のチップ釣りは初夏の風物詩であり、重要な観光資源となっています。

支笏湖地域では、支笏湖チップのブランド化を目指し、支笏湖チップの活用のほか、魚^{しょう}醬などの加工品を開発し、商品化を進めています。



支笏湖では、この支笏湖チップや国内最大級のブラウントラウトなどの釣りを楽しめるほか、温泉宿泊施設、樽前山や風不死岳、恵庭岳などの1,000m級の山々、これらの山々を望めるロケーションに恵まれた2つの趣の異なるキャンプ場があり、これらの資源を活用した自然体験メニューを一般財団法人自然公園財団や支笏湖温泉旅館組合などが展開しています。

支笏湖を含む支笏洞爺国立公園は、環境省の「国立公園満喫プロジェクト」の指定を受けており、自然環境に配慮しつつ、国内外からの来訪者による自然体験活動を推進するため、支笏湖地域の事業者、関係機関、環境省及び千歳市が連携して地域の魅力向上に取り組んでいます。

I_2.温泉

支笏湖温泉は、支笏湖の東岸に位置し、温泉宿泊施設や飲食店、土産物屋が集積する温泉街です。近年、リニューアルされた施設も多くあります。

また、支笏湖温泉は、平成26(2014)年4月から新たな泉源により配湯を開始し、これまでのナトリウム炭酸水素塩泉に加え塩化物温泉が加わり、とりとした美肌の湯です。

丸駒温泉は、支笏湖の北西岸、恵庭岳の麓に位置する温泉です。大正4(1915)年創業の源泉かけ流しの老舗旅館があり、支笏湖とつながっている天然露天風呂の湯面は、湖の水位と連動しています。

支笏湖周辺の温泉宿泊施設では、日帰り入浴を実施している施設もあり、手軽に支笏湖の温泉を楽しむことができます。



I_3. キャンプ場

支笏湖周辺には、美笛キャンプ場、モラップキャンプ場の2つのキャンプ場があります。

美笛キャンプ場は、支笏湖の南西岸に位置するキャンプ場です。周辺には樹齢300年以上のカツラ、ミズナラ、シナノキなどの大木からなる「巨木の森」が広がっています。

モラップキャンプ場は、支笏湖の南東岸に位置するキャンプ場です。場内には砂浜が広がり、車椅子対応の水洗トイレが完備されています。



I_4. 支笏湖周辺の山々(恵庭岳、風不死岳、樽前山、紋別岳)

恵庭岳(標高1,320m)は、昭和47(1972)年の札幌オリンピック冬季大会の滑降競技会場になった支笏湖西岸に高くそびえる円錐型火山です。山頂からは、支笏湖全景や日高山系、石狩平野などが見渡せますが、現在、落石などの危険があるため、第2見晴台(8合目と9合目の間)より上は立入禁止となっています。

風不死岳(標高1,102m)は、山頂近くまでトドマツやエゾマツ、落葉広葉樹を交える森林に覆われています。樽前山7合目ヒュッテから風不死岳登山口へ通じる道には、通称「お花畑」が広がっています。また、山頂からは支笏湖の美しい青色や、樽前山、羊蹄山やニセコの山々などが望めます。

樽前山(標高1,041m)は、世界的にも珍しい溶岩ドームの活火山です。7合目まで車で行くことができ、7合目から山頂までは約1時間と比較的短時間で登ることが可能で、活火山の様相や高山植物を見ることができるほか、眺望が良いことなどから多くの登山者が訪れています。なお、外輪山の内側の火口原は火山性ガスの噴出があるため、立入禁止となっています。

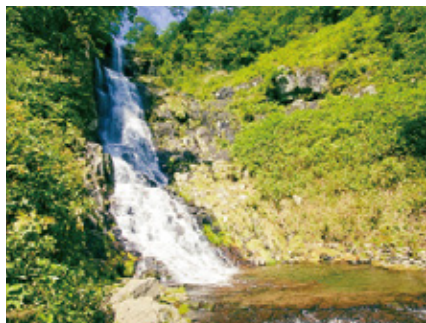


紋別岳(標高866m)は、湖畔から最も近い山で、山頂には通信用の鉄塔が立っており、保守管理用の舗装道路がある(一般の車は通行できません。)ことから、歩きやすく、登りは約2時間、下りは約1時間半と比較的短時間で登ることができます。山頂からの眺めも良く、支笏湖や樽前山、風不死岳、恵庭岳のほか、千歳・苫小牧・札幌市街が望めます。

I_5. 美笛の滝(現在は進入路が通行止めとなっています。)

美笛の滝は、落差50m以上の高さから階段状の岩肌を白糸のように水が流れ落ちる趣のある滝です。春のヤマザクラや夏の深緑、秋の紅葉と季節ごとの風情が楽しめます。

現在は平成26(2014)年の大雨の影響により、美笛の滝の見学はできません。



I_6. 山線鉄橋

湖畔温泉街近くの千歳川河口に架かる一本の鉄橋は通称「山線鉄橋」と呼ばれ、記念撮影のポイントになっています。明治41(1908)年、王子製紙が千歳川に第一発電所を建設するための物資運搬用に苫小牧から軽便鉄道(山線)を走らせた際に架けたもので、当初は木製でしたが大正12(1923)年に鉄橋に架け替えられました。

昭和26(1951)年には、道路交通網の急速な発達により輸送手段がトラック等に移り変わりこの山線も廃止されましたが、その後もこの鉄橋は道路橋・歩道橋として長年利用されてきました。当時を偲ぶ唯一の名残となっています。



現在のものは、平成9(1997)年に修復工事を行い再生されたもので、平成19(2007)年には経済産業省の近代産業遺産に、平成30(2018)年には土木学会の選奨土木遺産に認定されています。また、令和3(2021)年に全面塗装補修が行われ、当時の色彩がよみがえりました。

令和2(2020)年1月には、軽便鉄道(山線)の歴史を展示した「王子軽便鉄道ミュージアム 山線湖畔驛」がオープンしました。支笏湖の発展の礎となった山線の歴史を、ジオラマ・鉄道模型・映像で再現し、その歴史的役割や先人たちの努力など、有形・無形の価値を現代に伝えています。

I_7. 支笏湖ビジターセンター

支笏湖ビジターセンターは、支笏湖の自然を親しみやすく紹介する施設で、支笏湖地区の観光案内所としての役割も担っています。館内では、火山活動の様子や支笏湖周辺に生息する動植物の生態、湖の中の世界などを、模型や大型写真などにより魅力的に紹介しています。

また、支笏湖周辺の散策や野鳥観察などの自然観察会を実施しています。

この他にも、4KやVR(バーチャルリアリティ)による映像で支笏湖周辺の自然を高画質で紹介したプログラムもあり、多言語にも対応しています。



I_8. 支笏湖のイベント

支笏湖では季節ごとにイベントが行われています。

夏の「支笏湖湖水まつり」では、ステージイベントなどを行っています。

秋の「支笏湖紅葉まつり」では、支笏湖の特産品であるヒメマス（支笏湖チップ）を使った味覚汁を主に、農産物の販売や縁日などを行っています。

冬の「千歳・支笏湖水濤まつり」では、支笏湖の湖水を噴霧して氷像を製作し、公開しています。また、令和4（2022）年からは、氷像製作に使う資材等を環境に配慮したものとする取組が行われています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント内容が大幅に変更されています。



I_9. オコタンベ湖（現在は展望台への道路が通行止めとなっています）

北海道三大秘湖の一つであるオコタンベ湖は、原生林に抱かれ、天候や見る角度・時間によって、湖水の色がエメラルドグリーンやコバルトブルーなどに変化して見えます。

オコタンベ湖周辺は、国立公園の特別保護地区に指定されており、立入りは禁止されています。

また、林野庁による森林生態系保護地域にも指定されています。現在は湖展望台までの道路は崖崩れの恐れがあるため閉鎖されており、通行はできません。



II. 市街地地区の主な観光資源・施設

市街地地区は、新千歳空港やアウトレットモール、淡水魚の水族館、サケの捕魚車（通称インディアン水車）、工場見学など多様な観光資源・施設が点在したエリアです。



II_1. 新千歳空港

国内有数の規模を誇る新千歳空港は、航空機への搭乗や送迎だけでなく、飲食・買物などを楽しむことができる魅力的な施設です。

平成22（2010）年3月に国際線旅客ターミナルビルが新たにオープンし、これに伴い国内線ターミナルビルの連絡橋の工事や増築も行われました。

現在、空港ターミナルビル内には、飲食店やショッピング施設のほか、キャラクターを使ったテーマパークや映画館や温泉など、子どもから大人まで楽しむことができる施設が揃っています。

また、平成27（2015）年10月には深夜早朝の発着枠が6便から30便へ増加されています。平成30（2018）年8月には国内線ターミナルのリニューアルが完了、2階出発カウンターの再配置や手荷物自動検査システムの導入、バスラウンジの新設などの整備が行われました。

令和元（2019）年度には国際線ターミナルを大幅に拡張し、チェックインカウンター増設、自動チェックイン機の設置、保安検査場の拡張に加えて、ターミナル内にホテルやイベントホールを設置しました。

インバウンドの増加等による利用者増加を受けて、令和2（2020）年3月に1時間当たりの発着枠が、42回から50回に拡大されました。千歳市内西側の文京地区で平成23（2011）年に温泉が掘削され、現在、新千歳空港内の温浴施設、ホテルに湯を運び込み「新千歳空港温泉」として営業しており、ホテルや空港利用客だけでなく、千歳市民からも親しまれています。

令和2（2020）年度には、「北海道エアポート株式会社」による新千歳空港を含む道内7空港の一体的な運用が開始され、新千歳空港の魅力を高める施設整備が今後進められる予定です。



II_2. 道の駅サーモンパーク千歳

道の駅サーモンパーク千歳は、平成27（2015）年8月にリニューアルオープンし、地元の新鮮野菜を提供する直売所やレストラン、フードコートのほか、大型遊具を設置したキッズコーナーなどが好評で、館内は多くの市民や観光客で賑わっています。



Ⅱ_3. サケのふるさと千歳水族館

平成27(2015)年8月にリニューアルオープンしたサケのふるさと千歳水族館は、新設した支笏湖神秘のホールや子どもが楽しめる日本初の全面アクリル製タッチ水槽、円形流水水槽などを配置し、多くの市民や観光客などに喜ばれています。

また、千歳川の中の様子を直接見ることができる水中観察室では、自然のままの川の中の様子が観察できます。四季折々の生き物や、秋の遡上時期には産卵に向かうサケの群れを見ることができます。



Ⅱ_4. インディアン水車

インディアン水車は、国内でも珍しい水力のみで稼働する捕魚車（遡上するサケを捕獲するための設備）です。

その歴史は、後に北海道庁初代水産課長となる伊藤一隆が、明治19(1886)年に研修のためアメリカに渡った際、西海岸のコロンビア川で見た捕魚車の設計図を持ち帰り日本に伝えたことに始まります。この捕魚車が千歳川に初めて設置されたのは明治29(1896)年11月で、その後改良が重ねられて現在の形になっています。サケの遡上時期(8月下旬から12月上旬)に設置され、水車でサケを捕獲する光景は、千歳の秋の風物詩として親しまれ、毎年大勢の見学者が訪れています。



Ⅱ_5. アウトレットモール

国内外のショップが集積した道内初のアウトレットモールで、日本初・北海道初進出のショップも出店しています。

ファッションアイテムだけでなく、スポーツやアウトドア、インテリアなどのブランドをアウトレットプライスで楽しむことができます。南千歳駅に隣接し、新千歳空港からも近く、交通の便が良いアウトレットモールとして札幌近郊だけでなく、道外や海外からも観光客が訪れています。

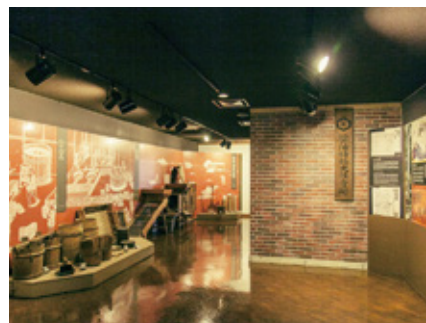


Ⅱ_6. 工場見学

千歳市内では、ビール工場やワイン醸造所、しょうゆ工場など、数多くの工場が見学可能となっています。

ビール工場では、ビールの製造から出荷までの工程の見学と、出来立てのビールを試飲できるブルワリーツアーを実施しています。ワイン醸造所では、特産品のハスカップを使ったワイン等を製造しており、試飲や製造している蔵を見学することができます。

しょうゆの製造工程などを見学できる工場では、しょうゆ造りを体験する小学生向けの見学コースも用意されています。



Ⅱ_7. 名水ふれあい公園

名水ふれあい公園は、内別川(水道水源)の源となるナイベツ川湧水の「名水百選」認定を記念して造られた公園です。

園内には、内別川を観察できる散策路や湧水噴出口をイメージした水道水の水くみ場が設置されています。また、隣接する浄水場管理棟の1階には、千歳に初めて降り立った飛行機「北海」第1号機の模型が展示されています。



Ⅱ_8. ゴルフ場

千歳市には、6か所のゴルフ場があり、国内外のプロゴルファーが参加する各種トーナメントも開かれる充実した環境が整っています。

全てのコースが新千歳空港から車で15～30分圏内にあり、札幌市内からも1時間～1時間20分程度と、交通アクセスも優れています。価格帯もセルフコースからキャディ付きコースまで多様なニーズに対応できます。



Ⅱ_9. 青葉公園

千歳市中心部に位置する青葉公園は、総面積102.3haを擁する道内屈指の自然豊かな総合公園で、平成12(2000)年に市民が適正に利用・活用しながら保全する地区として、市条例に基づく第2種自然環境保全地区に指定されています。

公園内には、図書館やピクニック広場、なかよし広場、テニスコート、陸上競技場、野球場、多目的広場などが整備されています。

園内には、豊かな緑に囲まれた散策路があり、散歩やジョギング、冬には歩くスキーのコースとして多くの市民などに利用されています。

また、青葉公園に隣接する千歳神社は千歳川にちなんだ古く江戸時代からの歴史を持ち、季節のお祭りや行事などを通じて市民に親しまれています。



Ⅱ_10. 市街地のイベント

千歳JAL国際マラソンは、原生林に囲まれた森林コースを走るマラソン大会で、国内外から1万人を超える参加があります。

スカイ・ビア&YOSAKOI祭では、飲食ブースが出店し、4大ビールメーカーのビールや地ビールなどを味わうことができます。また、全道から集結したYOSAKOIチームによるトーナメント及びパレードのほか、空路交流都市によるPRステージや野外コンサートなど各種ステージイベントを行っています。

千歳基地航空祭は、航空自衛隊千歳基地を会場に、各種装備品や自衛隊機等の展示のほか、ブルーインパルスによる曲技飛行なども行われ、全国から航空ファンが集まるイベントです。

インディアン水車まつりは、千歳川とサケとインディアン水車をテーマに「千歳の秋を楽しむ」をモットーにしたイベントです。道の駅サーモンパーク千歳を会場に、サケ鍋やイクラ弁当の販売のほか、ヤマメの釣堀や各種ステージ行事が行われています。

Ⅱ_11. 清流千歳川

千歳川は、支笏湖から流れ出る唯一の川で、市街地を貫流し、下流部で石狩川に合流して日本海に注ぐサケの遡上する一級河川です。その上流域の一部は、平成12(2000)・15(2003)年に厳格に保護・保存する地区として、市条例に基づく第1種自然環境保全地区に指定されています。

毎年7月から8月にかけては、キンポウゲ科の水生植物で、ウメに似た白い花を咲かす「チトセバイカモ」の見頃を迎えます。また、釣りやラフティング、カヌーのスポットにもなっています。

市街地中心部の千歳川沿いには、散策に適した遊歩道が設置されており、桜を植樹して新たな桜の名所とする取組が進められています。

千歳アイヌ協会や千歳アイヌ文化伝承保存会が伝統漁具(マレク)を使ったサケ漁を行うアシリチェブノミを毎年行っています。



Ⅲ. 農村地区の主な観光資源・施設

千歳市東部に広がる農村地帯は、温泉施設や数多くの農場、ファームレストラン・直売所が点在し、パレットの丘に代表される農村景観を楽しめる地域です。札幌市や新千歳空港から近く、高速道路などの交通条件も整っており、都市部との交流の進展が期待されています。



Ⅲ_1. パレットの丘

パレットの丘は、国道337号から東丘へ抜ける途中の幌加地区にある波状丘陵地帯を指します。

緑肥用として植えられたヒマワリが黄色く咲き誇り、黄金色の小麦やビートの緑の葉と相まって、美しいコントラストを形成する秋に見頃を迎えます。

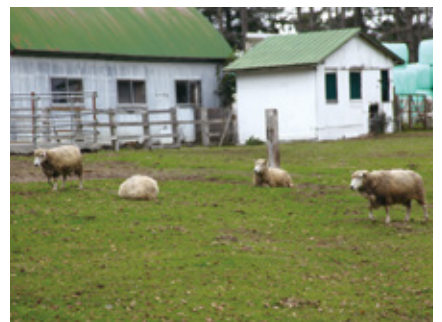


Ⅲ_2. 観光農園

農村地区には、牧場が多数あり、搾乳や乳製品づくりなどの酪農体験ができます。

また、イチゴやハスカップ、トウモロコシなどの収穫体験、ひまわりの迷路、ドライフラワー講習、そば打ちなどを楽しむこともできます。

このほかにも冬のアクティビティを体験できる農場もあり、多くの観光客が訪れています。



Ⅲ_3. ファームレストラン・直売所

農村地区には、地元産の旬の食材を生かした料理や、地元野菜・果物・牛乳を原材料にしたアイスクリームなどを提供するレストランが点在しています。また、季節の野菜や米、そばなどを販売する直売所も多い地域です。



Ⅲ_4. キウス周堤墓群

千歳市中央地区で、約3200年前の縄文時代後期につくられたお墓をみることができます。地面を丸く掘り、掘った土を周囲に土手状に積み上げ、内側を墓地にしています。周囲に堤があることから「周堤墓」と呼ばれています。全部で9基あり、一番大きなものは直径が83メートルあります。

縄文時代の墓が現在の地表面で見ることができる^{まれ}稀な例で、約11万平方メートルの範囲が国の史跡に指定されています。

2021(令和3)年7月27日、このキウス周堤墓群を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」は世界文化遺産に登録されました。



2. 前計画(千歳市観光振興計画:平成23年度～令和2年度)の総括

(1) 基本コンセプト

空が結ぶまち千歳・水が繋ぐ^{つな}まち千歳
～豊かな自然(水・緑・温泉)と交通アクセスを生かした観光地づくり～

(2) 計画指標の推移

観光消費額

期間	国内客	外国人客
平成23年度(2011)	16,941円	39,260円
平成27年度(2015)	12,571円	61,341円
令和3年度(2021)	12,573円	

(3) 基本目標

回遊性の向上と滞在時間の延長

(4) 施策の柱

① 支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと情報発信

支笏湖周辺的美笛キャンプ場、ポロピナイ園地等の各施設の維持管理を継続するとともに、多様化する観光ニーズに対応する観光資源の魅力づくりを推進するため、北海道観光振興機構^{※4}や近隣自治体と連携して、圏域における観光客を増加させるための誘致宣伝活動に積極的に参画しました。

支笏湖氷^こ溝まつりやスイーツなどをテーマとしたインスタグラムキャンペーンの実施、多言語に対応した観光情報誌の制作や案内スタッフの増員、千歳市に縁のある著名人とのコラボ企画による支笏湖チップ(ヒメマス)^{※5}、千歳バーガー^{※6}等のご当地グルメなどの紹介を通して、千歳を訪れた観光客自らが工夫した写真をSNS^{※7}上に発信し広く周知されたほか、インバウンド向けの観光案内機能の向上により、誘客や受入環境の充実に図りました。

※4 北海道観光振興機構…北海道の観光振興推進の中核機能を担い、関係機関・団体・企業・地域の知恵と資源を結集し、観光事業の振興並び地域の活性化を図り、北海道民の生活、文化の向上並びに経済の発展及び国際交流に寄与することを目的とする法人

※5 支笏湖チップ…支笏湖に生息するヒメマスのこと。釣り人や地元から「チップ」の名称で親しまれている

※6 千歳バーガー…北海道で1番の鶏卵生産量を誇る「千歳産の卵」を使ったご当地グルメ

※7 SNS…「Social Networking Service」の略で、人と人とのつながりを促進・サポートするコミュニティ型のWebサイトのこと

②観光資源の発掘と有効活用

支笏湖地区では、観光客を安全に受け入れられる環境整備を進め、温泉源泉施設の更新や多様化する観光ニーズの対応など、観光資源の維持充実に取り組みました。

支笏湖チップの通年供給や特産品の開発などの支笏湖漁業協同組合の取組や地域団体商標登録^{※7}の出願をするともに、知名度向上を図るため各種イベントへの参加を通してブランド化を推進し、魚醤^{しお}など新たな商品開発を試みました。

支笏湖チップの資源保護と増殖の効率化、防疫対策の充実を図るため、ふ化場の適正な維持管理と計画的な施設整備を実施し、順調な釣果の推移となったほか、関係機関や団体などと連携して釣りのマナーなどについて取締りや周知啓発を促進し、悪質な密漁行為はほぼ行われなくなりました。

支笏湖における内水面漁業^{※8}は、支笏湖漁業協同組合が漁業権を取得し、ふ化放流事業や遊漁料の徴収、漁業監視の実施等を通じヒメマス資源の保護増殖事業を推進しています。

※8 地域団体商標制度…地域の産品等について、事業者の信用の維持を図り、「地域ブランド」の保護による地域経済の活性化を目的として導入された制度

※9 内水面漁業…河川・湖沼などで行う漁業及び養殖業のこと⇔海面漁業

③観光まちづくりとおもてなし意識の向上

道の駅サーモンパークでは、多くの観光客が訪れ、隣接する水族館との連携により市内を回遊させるための拠点として魅力づくりを推進する役割を発揮しました。

東京オリンピック開催を契機としてスポーツ合宿や大会誘致の推進のほか、マラニック(スポーツイベント)と連携し、観光とスポーツを融合させた取組によりオリジナリティの高い魅力づくりを展開しました。

観光客等の再訪を促進するため、支笏湖を訪れる旅行者等に外国語通訳など適切な観光案内サービスを提供するほか、アイヌ政策推進交付金を活用して千歳アイヌ文化の活動拠点である蘭越生活館を中心にWi-Fiや多言語パネルの整備などの受入環境の充実に努め、ホスピタリティの向上を図りました。

千歳アイヌ文化の関心度を高めるため、新千歳空港や道の駅のデジタルサイネージによる情報発信、千歳アイヌ謎解きイベントの実施などを行いました。

④魅力を効果的に伝える情報発信の継続的な実施

市が有する観光資源等の認知度を高めるため、イベントの開催を始め、市ホームページや観光パンフレット等の紙媒体、国内外のプロモーション活動等を通して的確な情報発信に努め、新しい観光ニーズに対応したPR事業を実施しました。

新千歳空港の発着枠の拡大やLCC(格安航空会社)の乗り入れ参入、旅行形態のFIT(個人旅行型)へのシフトなどにより、新千歳空港を利用する観光客が増加していますが、こうした変化を捉え、観光客誘致宣伝活動などを実施した結果、宿泊者数はインバウンドを中心に増加しました。

各地域で開催される物産展では、千歳市の特産品の紹介・販売を通して販路拡大や売上増加を始め、千歳市のPRにつながるため、積極的な取組を進めました。

3.千歳市の観光の現状と課題背景

(1)千歳市の観光の現状

千歳市観光の現状を強み、弱み、機会、脅威に分類してみます。

強み (Strengths)	弱み (Weaknesses)
<立地> ・新千歳空港所在地 ・札幌市及び道内主要観光地へのアクセスの良さ <地域資源> ・氷濤まつりなど集客力のあるイベントが豊富 ・支笏湖洞爺国立公園に指定されている支笏湖を始め、千歳市に広がる豊かな自然環境 ・自然の中で体験できるアクティビティの充実 ・農村エリアでの体験コンテンツの充実 ・市街地エリアでの道の駅、水族館、工場見学、食やスイーツ等多彩な見どころ ・世界遺産を始めとする歴史文化コンテンツが豊富 <宿泊> ・高級からリーズナブルまで選択肢が多いホテル・旅館の集積 ・宿泊施設の増加 <その他> ・「千歳第一発電所」を始めとする水力発電等ゼロカーボンの取組 ・地域連携DMO(※) 千歳観光連盟との連携可能な体制 ※地域連携DMO…複数の地方公共団体にまたがる区域を一体とした観光地域として、マーケティングやマネジメント等を行うことにより観光地域づくりを行う組織	<人材育成> ・観光を取り巻く環境変化に対応できる地域観光人材の不足 <連携体制> ・近隣市町村や観光関係者との連携強化が必要 ・千歳観光連盟(DMO)、域内の観光事業者や関連団体と連携した観光地経営の視点と取組強化が必要 <観光コンテンツ> ・新たな観光ニーズに対応した観光資源の発掘と磨き上げ ・エリアをまたぐ観光コンテンツの商品造成が不足 ・付加価値の高い観光コンテンツ創出への取組不足 <インバウンド> ・インバウンドに対するマーケティング視点が不足 ・マーケティングに基づく適切な情報発信や手段(ソーシャルメディア活用)の検討と実践 ・インバウンドを域内に滞在、回遊させる仕掛けの不足 <二次交通> ・二次交通インフラ及びインフォメーションの不足 <情報発信> ・代表的な食や観光スポットの認知度が低い
機会 (Opportunities)	脅威 (Threats)
<インバウンド> ・ウィズコロナ、アフターコロナでのインバウンドの回復 <交通インフラ> ・新千歳空港国際ターミナルビルの拡張等の国際機能の強化 <旅行ニーズ> ・マイクロツーリズムや個人旅行の増加 ・自然と共生等の環境意識の高まり ・ライフスタイルの変更に伴う、「コト」消費及びアウトドアの需要の高まり <制度> ・ウィズコロナ・アフターコロナにおける旅行需要喚起の取組 ・働き方改革 ・観光ビジョン実現プログラム2020等 <その他> ・「アドベンチャートラベルワールドサミット(ATWS) 2023北海道」の開催	<新型コロナウイルス感染症の影響> ・新型コロナウイルス感染症の長期化による観光客の減少 ・新型コロナウイルス感染症の影響による観光業界の人材不足 <観光行動から環境への影響> ・アウトドアニーズの高まりに伴う自然への影響 <観光全般> ・国内全体や北海道の人口減少に伴う観光マーケットの縮小 ・多様化・複雑化する観光客ニーズへの対応不足

(2) 千歳市の観光課題背景

① 感染症拡大に伴う観光需要の激減

I. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により観光客が激減

令和元年12月に海外で初めて確認され、現在も世界中で感染の流行が継続している新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、観光を取り巻く環境は一変しました。令和2年4～6月の外国人宿泊客延べ数は、前年同期比99.6%減と極めて深刻な落ち込みとなり、旅行のキャンセルや予約控えによる外出自粛の影響を受けて、大きな転換期を迎えることになりました。国は観光需要の回復のため「GOTOトラベル事業」を展開し、北海道においても「北海道スタイル安心宣言」を実践する観光事業者を対象として「どうみん割」などの誘客支援策に取り組んでいますが、感染収束が見通せない中、実施に際しては感染状況を踏まえた中止・延期を繰り返すなど難しい対応が求められています。

II. 全事業種に深刻な影響、特に観光事業者の落ち込みが顕著

感染症による影響は全ての業種に深刻な影響をもたらしましたが、観光事業者、特に宿泊業や飲食業の落ち込みが顕著です。観光事業者の事業継続、雇用維持に向けて様々な支援策が講じられてきていますが、依然収束の見通しが立たない状況においては継続的な支援が必要とされています。

III. 収束、回復期における感染症対策を踏まえた需要喚起策

日本国内の感染が抑制されていても、外国で変異株が確認されるなど再拡大の可能性はありますが、今後の収束、回復期に向けて感染症対策を踏まえた需要喚起策が求められています。千歳市においても、「ちとせ割」や「飲食クーポン」などの誘客のための支援策やアフターコロナを見据えた新たなコンテンツの創出に取り組んでいますが、実施に際しては、感染状況を踏まえ、観光客や観光事業者及び市民が安心して展開できるよう、時期や期間、内容について事業者や関係機関と連携して慎重に対応しています。

IV. ライフスタイルの変化に伴う旅行形態や観光客のニーズの多様化

団体旅行から個人旅行への旅行形態の変化や「モノ」消費から「コト」消費へとニーズの多様化が進んでいます。さらにコロナ禍においては、3密回避が求められる中、キャンプなどのアウトドアの需要の高まりやプライベートな空間での滞在を求める傾向がみられます。

国内旅行消費は「少人数化」、「短期化」、「近距離化」の傾向にあり、「車で」「日帰りで」住まいの近くを楽しむマイクロツーリズムの需要が高まっています。旅行時期の平準化等、働き方改革と併せた新しい旅行形態「ワーケーション」も注目されています。

V. 観光地経営の視点に立った収益の多角化、ビジネス展開

観光地経営という視点で、地域の稼ぐ力を高めることが求められます。観光で稼ぐまちづくりを推進し、千歳観光連盟や関係者と連携してオール千歳で観光地づくりを行う必要があります。

また、利用の平準化の視点(昼夜、夏冬など)から、安定的な集客を図るコンテンツづくりや千歳のイメージ・知名度向上をいかに図るかが課題です。

② 豊富な観光資源の有効活用可能性と必要性

国立公園の支笏湖を始め、良質な温泉、アウトドア体験など四季を通じて楽しむことができ、周辺の農村地区でも北海道らしい農村風景が広がり、市街地地区では見学施設、食など数多くの魅力的な観光資源が点在しています。

I. 回遊性向上や滞在延長につなげる観光資源の活用策が求められる

I_1 支笏湖地区は手つかずの自然の中で体験するアクティビティや温泉宿が充実

支笏湖と周辺の手つかずの自然は、千歳市を代表する観光資源であり、新千歳空港から車で約40分の至近にあるため比較的移動に時間を要しないで楽しめるエリアです。また、登山や自然散策、カヌーなどの自然を生かした多彩な体験メニューの展開や泉質も風情も異なる温泉宿の魅力を効果的にPRし、他の観光地との差別化を図ることが必要です。さらに支笏湖チップのブランド化など今あるものの磨き上げ方や見せ方が課題です。

I_2 農村地区は雄大な景観や歴史文化、ファーム体験が豊富

北東部に広がる農村地帯は、のどかな田園やバレットの丘など美しい風景が広がるとともに、令和3年7月に世界遺産登録された縄文遺跡のキウス周堤墓群が所在し、さらに採れたての農産物と季節の食材を使った食やスイーツのほか、農場体験や果物狩り、乳しほり体験などのアクティビティスポットも豊富にあります。

一方、交通手段や宿泊施設が少なく、1日を通じて過ごすことができない課題があります。

I_3 市街地地区は道の駅、水族館、工場見学、食やスイーツなど多彩な見どころ

中心部の市街地地区には、「サケのふるさと千歳水族館」を代表するサケマスの見学施設や農産物直売所や飲食店がそろった道の駅サーモンパーク千歳、水がきれいだからこそ企業が集積する食品飲料などの工場見学、市内外から多くの人が足を運ぶレストラン・スイーツ店など多くの見どころがあります。また、市内及び近郊には多くのゴルフ場があり、利用者や大会観戦などにより観光入込にも大きな影響をもたらしています。しかし、千歳の代表的な食や観光スポットの認知度が低いことが課題です。

I_4 氷濤まつりなど地域の魅力を発信する四季折々のイベントを開催

支笏湖の湖水を吹き付けて凍らせた氷のオブジェが立ち並ぶ「千歳・支笏湖水濤まつり」を始め、湖水開き、湖水まつり、紅葉まつりなどの支笏湖地区の催し物のほか、ブルーインパルスの展示飛行が見ものの千歳基地「航空祭」、秋の風物詩「インディアン水車まつり」、クロスカントリースキー大会の「ホルメンコーレンマーチ」など四季折々のバラエティ豊かなイベントを開催しています。豊富な観光資源を巡り、見たり食べたり宿泊して千歳市内での消費活動につなげていくことが観光の役割です。

市内での回遊性を高め、滞在時間の延長を図るため、農村地域で交流を楽しむグリーンツーリズムや環境保護の持続可能性を考慮するエコツーリズム、ゴルフやサイクリングなどのスポーツツーリズム、農産物やグルメを体験するフードツーリズムなどを展開する必要があります。

Ⅱ. 自然との共生などの環境意識の高まりからサステナブルな観光推進が求められている

SDGs(持続可能な開発目標)を核とする「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の採択など、地球環境を取り巻く国際的な取組が大きく変化している中、今後も引き続き、環境負荷低減に向けた取組を進めていくことが重要です。近年のアウトドア活動は多種多様化しており、気軽に自然と親しむ機会が増加していますが、一方で利用の集中やマナー違反などによる自然環境への影響がみられており、自然との調和や共生などの環境意識の高まりが急速に進展してきました。

また、豊かな自然が注目されると同時に利用者同士や事業者の参入など多方面で課題が現れ始めており、地域が一体となってサステナブル、環境負荷低減などのテーマに取り組んでいく必要があります。

③観光を取り巻く環境の大きな変化

I. 外国人観光客の増加

インバウンドの増加などにより、観光入込客数は増加傾向にありました。新型コロナウイルス感染症の影響が本格化する前の千歳市における外国人宿泊客延べ数は、令和元(2019)年度は20万人を超えており、平成27(2015)年度からの5年間で倍増しています。これは、日本に対するインバウンドの関心の高さを始め、航空・鉄道等の交通ネットワークの充実、多言語表記などの受入環境整備、魅力的なコンテンツの造成、対外プロモーション等の効果と考えられています。

一方、外国人に対する市内の食や観光スポットのインフォメーション不足が課題です。

Ⅱ. 新千歳空港国際線ターミナルビルの拡張などの国際機能の強化

北海道の空の玄関口である新千歳空港の令和元年の旅客数は約2,460万人であり、6年連続で過去最高を更新していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により国内線は58%減、国際線は84%減となっています。

国際線旅客ターミナルは、平成22年3月に供用開始された後、令和元年時点でヘルシンキやシドニーを始め中国、韓国、台湾など25都市と結び国際拠点空港化を目指しており、令和2年6月からは空港運営事業者である北海道エアポート株式会社による道内7空港の一体運営が開始され、利用者の利便性向上などが期待されます。

Ⅲ. 急速な変化に対応できる環境整備や人材育成

国等による補助事業を活用して付加価値の高い滞在環境を実現するほか、新型コロナウイルス感染症の収束までの期間を活用して人材育成を加速し、旅行需要回復期に備えることが求められます。また、市は千歳観光連盟と連携して地域への観光の舵取り役となり、観光案内機能の充実や観光スポットの公衆Wi-Fiの整備、コンテンツの充実といった、収束後を見据えた受入環境整備を進める必要があります。

さらに、近隣市町村の環境の変化にあわせて千歳への誘客策を進めるとともに、市民が市内観光を楽しむ取組が必要とされています。

(3) 課題整理と取り組むべき基本的方向



取り組むべき基本的な方向

「ウィズコロナなど時代背景に合った観光振興」

観光地としての魅力向上を図るとともに、コロナ禍によるワーケーションや、DX(デジタル・トランスフォーメーション)などの時代背景に合った新しいニーズに対応した観光事業を創出するなど、付加価値の高い観光振興を目指して施策に取り組み、地域経済の活性化につなげます。

「地域資源を生かしたツーリズムの創出」

交通の利便性や自然環境など本市の優位性を生かすとともに、産業・スポーツ・歴史文化など地域資源を活用したツーリズムやイベントの創出・活性化を目指します。

「観光客の受入環境整備と誘致宣伝活動の推進」

国内外からの誘客に向け、効果的な観光誘致宣伝活動を推進するとともに、観光案内機能や公衆Wi-Fi環境の向上など、観光客の受入環境の充実を図ります。

第3章 千歳市観光振興プランの基本的な方針

1. 観光の将来像

“北海道で空に一番近いまち～千歳”

新千歳空港は、北海道の空の玄関口として、千歳市はもとより、北海道内全体の地域活性化や観光振興につながる可能性を秘めています。国内外から再び多くの旅行者が千歳を訪れるアフターコロナ期を見据え、受入環境の更なる充実のほか、観光資源を生かした誘客促進策や情報発信に取り組みます。

2. 基本的な方向と施策の展開

【施策の展開1】 ウィズコロナなど時代背景に合った観光振興

観光地としての魅力向上を図るとともに、観光客の満足度を高めるため、感染症対策を踏まえたワーケーションや、DX（デジタル・トランスフォーメーション）などの時代背景に合った新しいニーズに対応した観光事業を創出するなど、付加価値の高い観光振興を目指して施策に取り組み、地域経済の活性化につなげます。

<ワーケーション>

ワーク（仕事）とバケーション（休暇）を組み合わせた造語で、観光地やリゾート地など、普段のオフィスとは離れた場所で休暇を楽しみながら働くスタイルのこと。

<DX（デジタル・トランスフォーメーション）>

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービスビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。



【施策の展開2】 地域資源を生かしたツーリズムの創出

交通の利便性や自然環境などの本市の優位性を生かすとともに、産業、スポーツ、歴史文化など地域資源を活用したツーリズム、イベントの創出や活性化を目指します。



【施策の展開3】 観光客の受入環境整備と誘致宣伝活動の推進

国内外からの誘客に向け、効果的な観光誘致宣伝活動を推進するとともに、観光案内機能や公衆Wi-Fi環境の向上など、観光客の受入環境の充実を図ります。



第4章 施策の展開

1. ウィズコロナなど時代背景に合った観光振興

（1）安全で安心して楽しめる観光事業の創出

① マイクロツーリズムやユニバーサルツーリズム^{※9}等に向けたコンテンツの造成

北海道内や近隣市町村の住民をターゲットとしたマイクロツーリズムなどの回遊性を高める取組を進めます。また、高齢化の進展のほか、夫婦やパートナーなどの個人旅行が増加していることから、ユニバーサルツーリズムなど観光客が安全で安心して楽しめるコンテンツの造成を観光事業者と連携して進めます。

② コト消費^{※10}のニーズからのキャンプなどのアウトドアコンテンツの推進

ライフスタイルの多様化により、量より質を重視する価値観が普及し、精神的な豊かさや満足度を求める消費が伸びてきており、千歳でしか体験できない唯一無二のプログラムや3密回避のためキャンプを始めとする屋外での自然体験などの新たなニーズに応じたコンテンツづくりに努めます。コロナ禍の中で開催した「千歳・支笏湖水³³まつり」や「支笏湖ブルーキャンプ」において、実行委員会を始め多くの関係者が感染症対策などの様々なノウハウを得られたことから、今後のイベントに活用していきます。アドベンチャーツーリズムもインバウンドを中心に人気が高まっています。

③ 新しい観光事業の創出

eスポーツのイベントや大会誘致などを展開することにより、プレイヤーや運営会社、参加者などが、千歳の魅力を知り、宿泊、飲食、観光、土産物の購入につながるよう、関係事業者や関係機関と連携して取組を進めます。感染拡大時においては、感染防止を徹底した上で、ワーケーションや近場での修学旅行、オンラインツアー^{※11}など需要の変化を踏まえた観光コンテンツの創出に取り組みます。

（2）「観光地経営」の視点に立った人材の育成、経営体質の強化

① 施設整備、コンテンツ造成による高い消費単価の実現

宿泊施設等の施設改修や廃屋の撤去を含めた観光地の拠点整備を実施し、高付加価値な滞在環境を実現するとともに、体験型コンテンツをあわせて提供することにより消費単価の向上を目指します。

また、施設整備に関しては、新たな大型施設の建設のみならず、既存施設のブラッシュアップを図ります。

更には、観光を取り巻く環境変化に対応できる地域観光人材の育成に努めます。

② 千歳観光連盟を始めとする観光事業者との連携協力の強化

感染症拡大の影響により甚大な影響を受けた中、市内の観光事業者間の連携強化がますます求められています。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立ったコンセプトに基づき、観光事業者や関連する団体などと調整・協働しながら観光地づくりを推進していくため、連携・協力を強化します。

※10 ユニバーサルツーリズム…高齢や障がい等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できる旅行

※11 オンラインツアー…オンラインの会議システムなどを用いて、国内外の観光地と在宅の参加者を結び、ライブ映像や動画など現地の様子を見せながら実際の旅行のようにガイドすることなど

2.地域資源を生かしたツーリズムの創出

(1) アドベンチャーツーリズムの推進

「アドベンチャーツーリズム」とは、「自然」・「文化体験」・「アクティビティ」の3つの要素のうち、2つ以上で構成される体験型の旅行形態です。アクティビティを通じて地域の自然・文化を体験することにより、旅行者自身が新しい多様な価値観に触れ、自身の内面を変える新しい旅のスタイルであり、インバウンドからも人気が高く長期滞在が見込まれ、観光消費額も大きいという特徴があります。

千歳市には支笏湖、農村部に雄大な自然があり、カヌーやダイビング、冬の遊びなどがあり、千歳アイヌ文化や縄文遺跡群などの歴史文化を有するなどアドベンチャーツーリズムの要素が豊富にあります。

令和5年に開催される「アドベンチャートラベルワールドサミット(ATWS)2023北海道」は、観光地としての魅力を世界に発信する絶好の機会であり、千歳の魅力を世界に発信できるようオール千歳で取り組みます。

(2) グリーンツーリズムやスポーツツーリズムなどの各テーマの展開

「ツーリズム」とは、ある一定の目的を持った旅行を指します。観光の目的は見る観光から五感で感じる体験型観光に変化しており、観光客のニーズの多様化によって、旅の目的地として選ばれるためには様々なプログラムが求められます。市内での回遊性を高め、滞在時間の延長を図るため、農村地域で人々との交流を楽しむグリーンツーリズムや環境保護の持続可能性を考慮するエコツーリズム、ゴルフやサイクリングなどのスポーツツーリズム、農産物やグルメを体験するフードツーリズムなど様々なツーリズムを創出し関係者と連携しながら誘客を図ります。

(3) 支笏湖地区の食、温泉などの豊富なコンテンツを高付加価値化

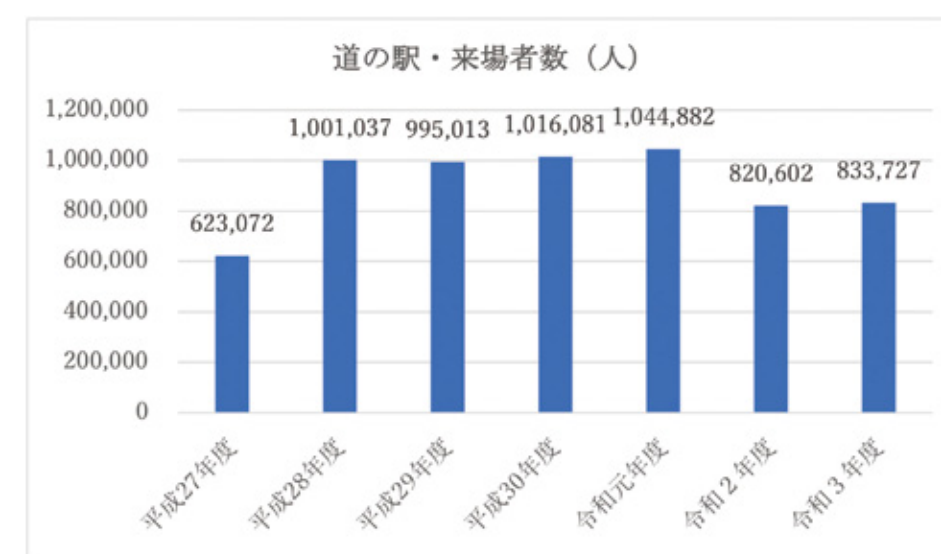
「支笏湖チップ」のブランド化を図るため、道内外で実施される各種イベント等に出店し、「支笏湖チップ」及び加工品の説明並びにPRを通じ、支笏湖への観光客の誘致を図ります。

支笏湖地区の温泉は、異なる泉質が楽しめるほか、上質なくつろぎを提供できる環境があるため、自然と調和した温泉の魅力を生かした高付加価値化に取り組みます。

(4) 道の駅サーモンパーク千歳の観光拠点化、広域観光ルートの創出

道の駅サーモンパーク千歳は、平成27年8月にリニューアルオープン後、来場者数が着実に伸びており、コロナ禍の中においても物流のドライバーのトイレ休憩所として利用されました。北海道内の道の駅スタンプラリー完走者が選ぶ道の駅ランキングに毎年部門賞を獲得するなど、利用者から高い評価を受けており、引き続き指定管理者による適正な管理とともに、土産物屋や個性豊かな飲食店、キッズスペースが集結する観光スポットとして、さらに千歳の観光の情報発信の拠点として利用者増に向けて取り組みます。

新千歳空港を利用する観光客の誘客を図るため、新千歳空港を含む道内7空港や近隣市町村、観光団体と連携した広域観光ルートの創出に取り組みます。



(5) 滞在型観光の促進

千歳に長期滞在し、地元の食や文化、体験を楽しむ

滞在型観光とは、長く滞在し、地元の住民との触れ合いや文化体験を楽しむ観光スタイルの一つです。滞在型観光の促進の中で、休暇の観光だけではなく、テレワークなどにライフスタイルが変化し、仕事を中心としながら観光も楽しむニーズが今後は生じると考えられ、市民が日常的に親しんでいる店舗や滞在しやすい場所の紹介の提供などに取り組みます。

(6) サスティナブルな観光の推進

① マナー順守、環境負荷の低減、地元住民との合意形成

長期的な視点として、観光や誘客を推進するに当たっては住民の十分な理解が重要です。市外からの観光客を受け入れる前に、地元住民・事業者が自然環境や地域文化を大切に守りながら地元自らが楽しめる観光地づくりを進め、市民誰もが観光客に対しておもてなしの心をもって歓迎する観光振興の取組に努めます。近年、市内キャンプ場は、大変な人気で賑わっていますが、一方で交通量の増加やマナーの低下によって自然の美しさが損なわれてしまっは観光地としての価値が低下してしまいます。現状の需要に適合しつつ、現在と未来の経済、社会、環境への影響に配慮した観光の取組が持続可能な開発目標(SDGs)^{※12}の貢献につながるよう努めます。

② 「ゼロカーボン」のブランド化

国では令和32(2050)年のカーボンニュートラルを表明しており、千歳市においても令和4(2022)年2月に「千歳市ゼロカーボンシティ」を宣言、同年3月に支笏洞爺国立公園支笏湖地区が全国6番目のゼロカーボンパークに登録されました。脱炭素社会を構築し未来を担う次世代に、千歳市の豊かな自然環境を引き継ぐための取組を進めています。

支笏洞爺国立公園内にある支笏湖は、国の開発規制や地域による環境保全活動の成果により、環境省の水質調査で11年連続日本一になるなど豊かな自然環境を有しています。また「支笏湖地域」は、土木遺産と近代遺産に選定されている「千歳第一発電所」を始めとする水力発電によって域内の多くの電力を賄っている希少な電力ゼロカーボン地域です。

支笏湖地域^{※13}をカーボンニュートラルのショーケースとして、支笏湖を訪れる国内外の観光客に脱炭素型の持続可能なライフスタイルを体験していただくコンテンツの創出に向けた取組を進めます。

※12 持続可能な開発目標(SDGs)…2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致により「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に明記された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標

※13 ゼロカーボン…二酸化炭素排出量がなく、温室効果ガス排出において害を及ぼすことが少ない。再生可能エネルギーなどによって地域の電力が稼働される

3. 観光客の受入環境整備と誘致宣伝活動の推進

(1) 交通の利便性や宿泊施設の集積を生かした魅力づくり

空港所在地として、道央や道南、道東への交通の要衝地であり、かつ市内中心部には大規模なホテルやビジネスホテルが多く立地しており、イベントやMICE^{※14}の誘致を図り、国内外からのヒト・モノ・情報などの交流を促進して地域のイメージアップを図ります。スポーツ大会・合宿を含めた受入環境の充実に努め、参加者を市内観光に誘導し観光による消費を促します。

一方、二次交通に課題があることから、観光客の回遊を促すために、千歳市内の観光地点を結ぶバス路線の確保(イベント開催時の増便や臨時便を含む。)や、観光タクシー・レンタサイクルといった移動手段の整備など、観光資源間の連動を円滑にする取組を促進します。

(2) 国内外観光客に対する案内・通信機能強化

観光客の出発点(新千歳空港・レンタカー営業所)や主な立ち寄り地点(道の駅、ビジターセンター)などにおける、高齢者や障がい者にも配慮した情報提供の充実を図るとともに、インバウンドの利便性向上のため、観光案内所に外国語対応の人材を配置します。

観光情報誌の年次的計画に沿った作成(日本語版、英語版、繁体字版、簡体字版、タイ語版、韓国語版)とともに、「千歳日和(平成27(2015)年度～平成30(2018)年度)」、「今日のちとせ(令和元(2019)年度～)」に続く新たな情報誌に刷新します。

さらに、テレワークやワーケーションの広がりに対応するため、観光スポットのWi-Fi環境の整備強化に関係者と連携して取り組みます。

(3) フィルムコミッションなどによる誘客促進やSNSなどを活用した情報発信

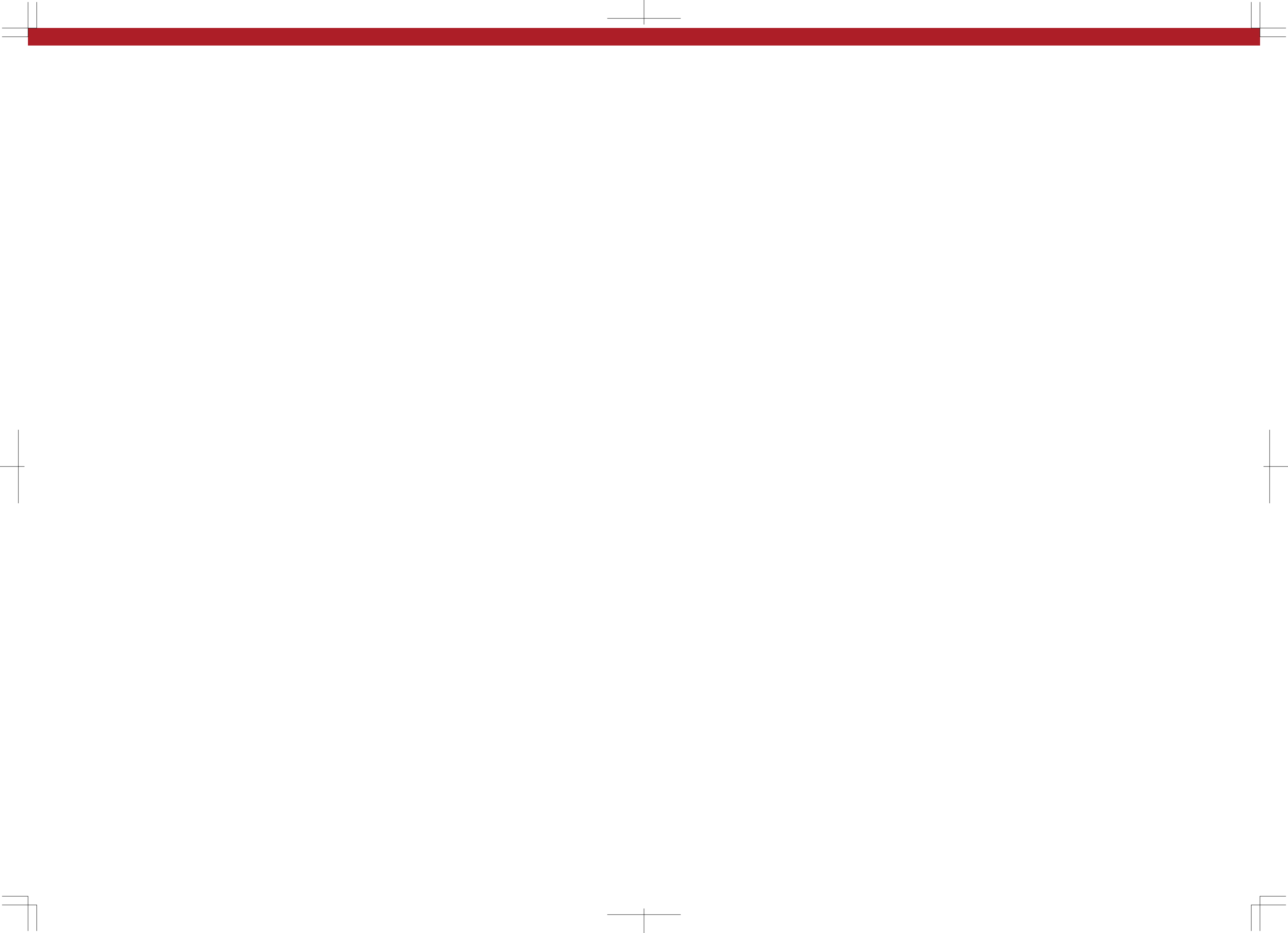
映画・ドラマ・CMのロケーションとして誘致するフィルムコミッションなどの施策を通して誘客促進を図ります。千歳市出身の声優や漫画家を始め、文化、芸術、芸能、スポーツ等の各界で活躍する著名人の高い情報発信力を活用して、まちの魅力を広く発信しPR活動を実施します。地域情報がSNSでの投稿を介して広がりを見せる「情報の拡散」など、効果的な情報発信に努めます。

(4) 災害等に備えた受入環境の整備

災害や感染症を始め、様々な危機に的確に対応できるよう観光事業者や地域との危機管理体制の強化を図るとともに、危機発生時には、観光客等に多様なリスクに応じてより的確な情報を伝達できるよう情報発信の強化を図ります。

また、支笏湖地域の自然環境の保全や、安心・安全な利活用に向け策定した「支笏湖ルール」の実践を促進し、素晴らしい自然を未来に残すとともにサスティナブルな観光利用を目指します。

※14 MICE…企業等の会議(Meeting)、企業等の行う研修旅行(Incentive Travel)、国際機関や学会等が行う国際会議(Convention)、展示会やイベント(Event、Exhibition)のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称



資料

アンケート調査結果、策定懇話会、前計画の個別施策の取組結果

○観光客アンケート調査結果

■業務名

- ・千歳市観光振興基本計画調査業務

■調査方法

- ・観光ポイントにおける調査:調査員による聞き取り面談方式で実施
- ・宿泊施設における調査:宿泊施設協力のもと留め置きにより実施

■調査対象

- ・市内の観光ポイント及び宿泊施設を訪問した観光客

■調査期間

- ・令和3年10月中旬～10月下旬

■調査地点及び回収サンプル数

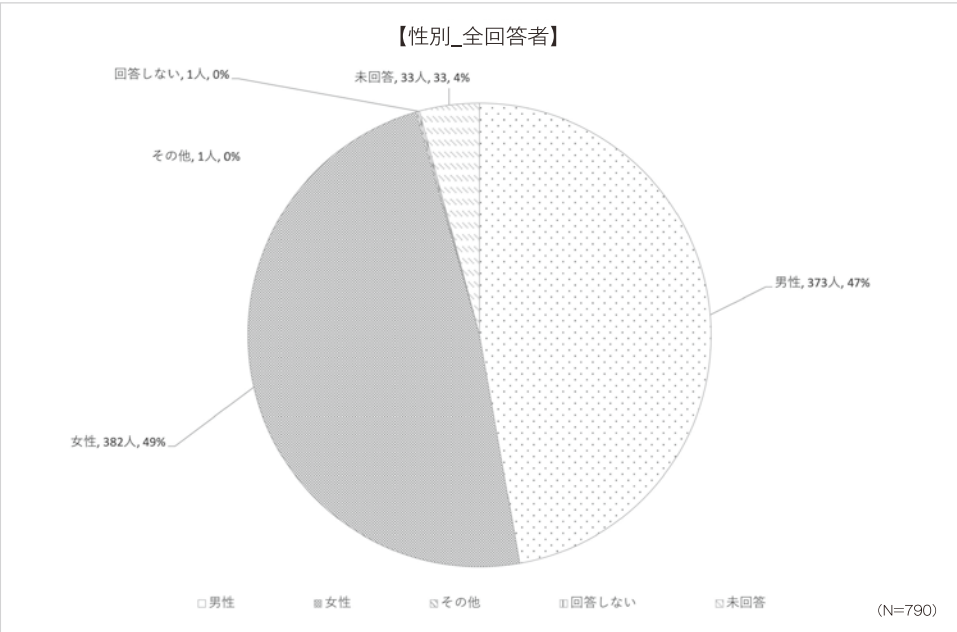
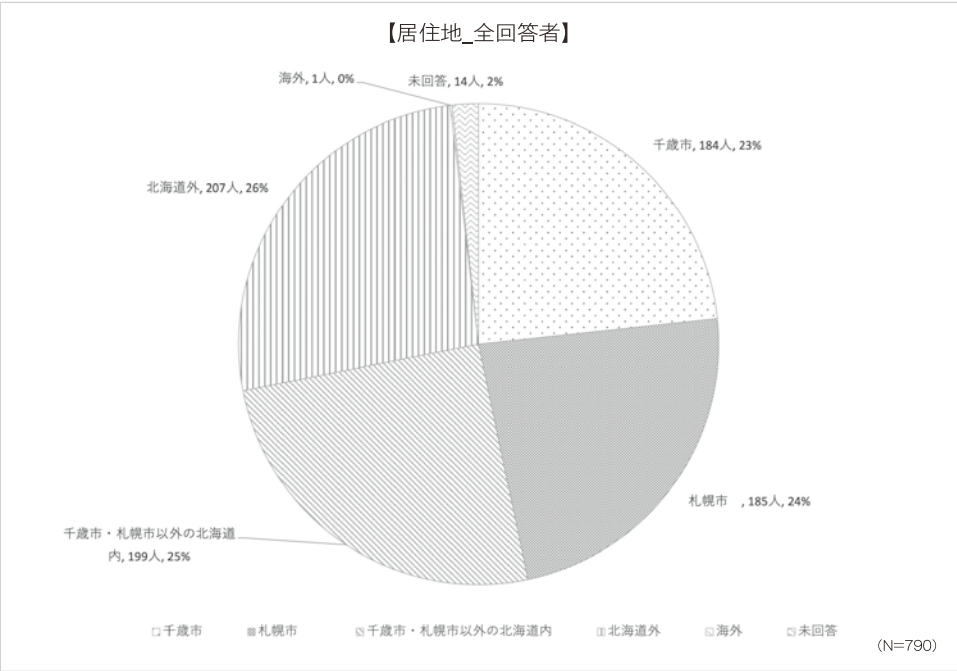
種類	地区	調査地点	回収数
観光ポイント	支笏湖	支笏湖畔園地	196
		支笏湖ビジターセンター	
		美笛キャンプ場	
		モラップキャンプ場	
	市街地	千歳アウトレットモール・レラ	446
		道の駅サーモンパーク千歳	
		サケのふるさと千歳水族館	
		千歳ワイナリー	
	農村	花茶	13
		北海道箱根牧場	
宿泊施設	支笏湖	丸駒温泉旅館	79
		しこつ湖 鶴雅リゾートスパ 水の譚	
		休暇村支笏湖	
	市街地	クイーンズホテル千歳	56
		ANAクラウンプラザホテル千歳	
		グランテラス千歳	
		ホテルエリアワン	
総計			790

■回答者居住地について

- ・回答者の居住地は「北海道外」が207人で最も多く、全体の26%を占めている。
- ・その次に多い順は「千歳市・札幌市以外の北海道内」199人(25%)、「札幌市」185人(24%)、「千歳市」184人(23%)である。

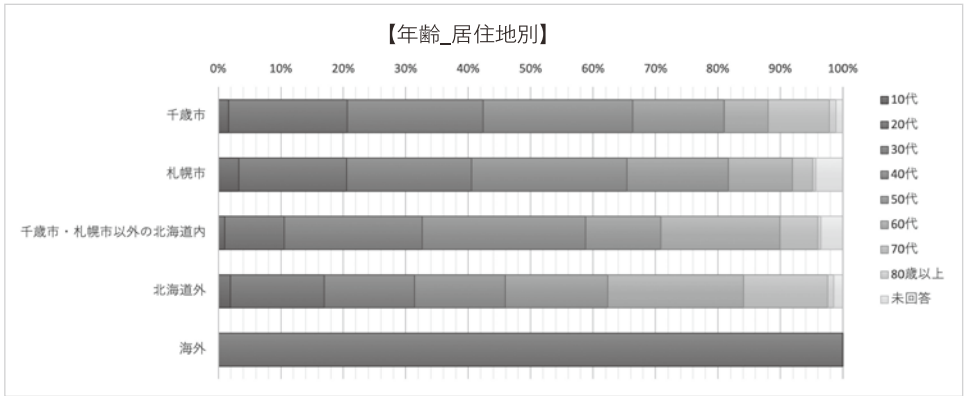
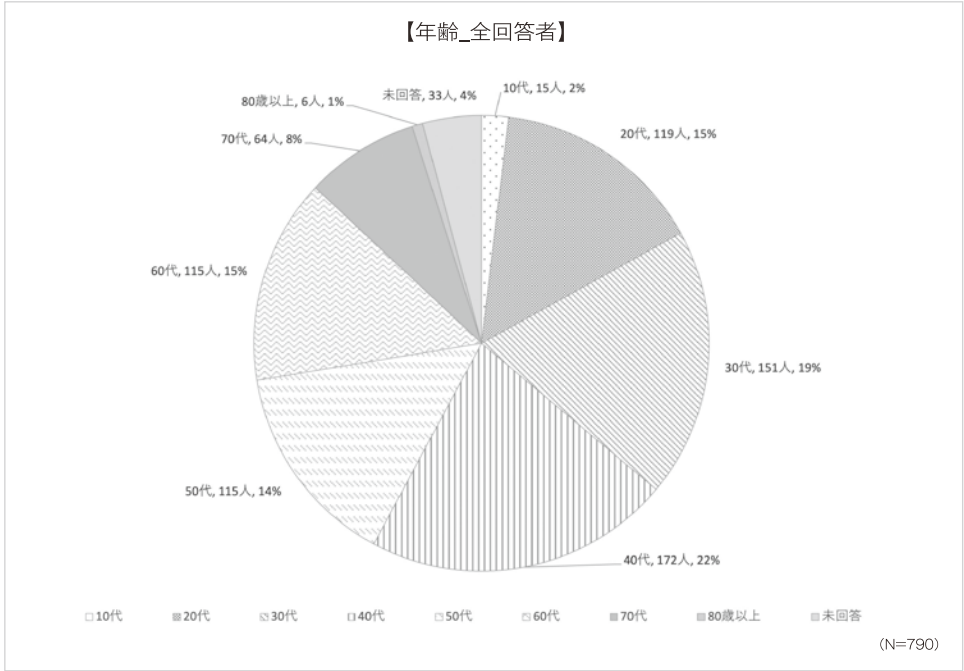
■回答者性別について

- ・回答者の性別は、女性49%、男性47%となっている。



■回答者年齢について

- ・ 回答者の年齢は、「40代」の方が一番多く、172人で全体の22%を占めている。
- ・ その次に多い順は「30代」（19%）、「20代」（15%）、「60代」（15%）、「50代」（14%）となっている。
- ・ 居住地別に見ると、「千歳市」居住の方は40代以下の方が多く、全体の67%を占めている。「北海道外」居住の方は40代以上の方が多く、全体の54%を占めている。

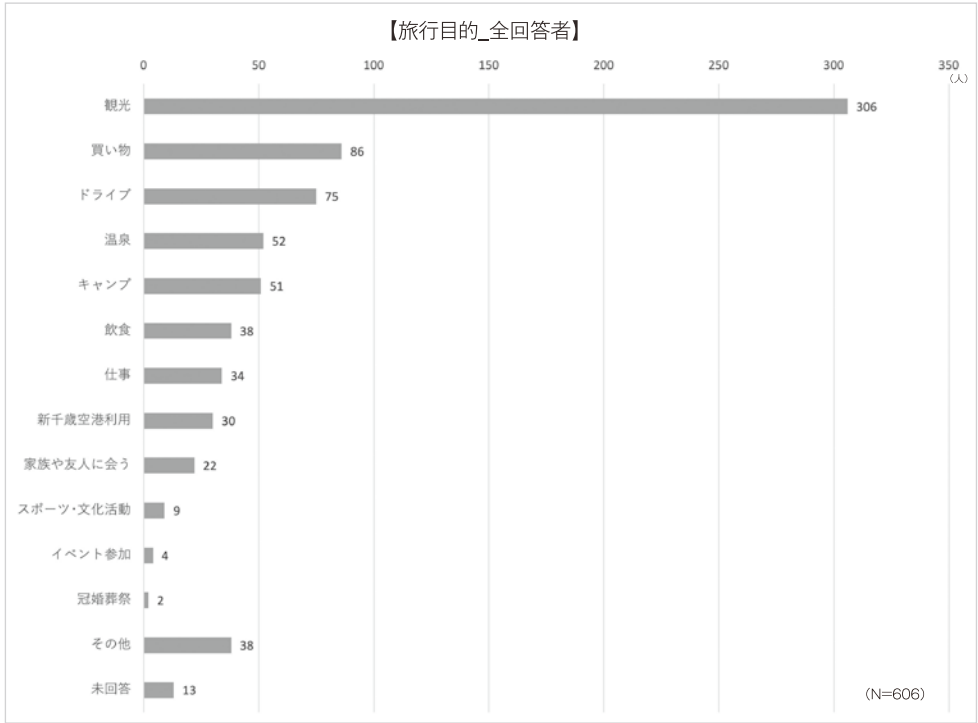


	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	未回答
千歳市	1%	19%	22%	24%	15%	7%	10%	1%	1%
札幌市	3%	17%	20%	25%	16%	10%	3%	1%	5%
千歳市・札幌市以外の北海道内	1%	10%	22%	26%	12%	19%	6%	1%	3%
北海道外	2%	15%	14%	14%	16%	22%	14%	1%	2%
海外	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

(N=776)

■訪問目的（複数回答）について

- ・ 回答者の訪問目的は「観光」目的が一番多い。その次に多い順で上位3つの目的は「買い物」「ドライブ」「温泉」である。
- ・ 居住地別に見ると、「札幌市」「千歳市・札幌市以外の北海道内」「北海道外」居住の方は全て「観光」目的が一番多い。特に「北海道外」居住の方の「観光」目的の割合が一番高く、全体の74%を占めている。多い順で2位の目的について、「札幌市」居住の方は「キャンプ」と「ドライブ」であり、「千歳市・札幌市以外の北海道内」居住の方は「買い物」であり、「北海道外」居住の方は「温泉」である。
- ・ 年齢別に見ると、「10代」～「70代」全て「観光」目的の訪問が一番多い。「20代」～「40代」の方のその次に多い訪問目的は「買い物」である。「50代」～「70代」の方のその次に多い訪問目的は「ドライブ」である。
- ・ 一比較的に時間の余裕のある「50代」～「70代」の方に対し、「ドライブ」の通過地にならないよう、宿泊を含め、滞在時間の向上の工夫が必要である。



【旅行目的_居住地別】

	札幌市	千歳市・札幌市以外の北海道内	北海道外	海外
観光	42%	37%	74%	0%
仕事	4%	2%	11%	100%
飲食	6%	11%	3%	0%
買い物	15%	27%	2%	0%
キャンプ	19%	7%	1%	0%
温泉	4%	7%	15%	0%
イベント参加	1%	1%	1%	0%
冠婚葬祭	0%	0%	1%	0%
新千歳空港利用	2%	3%	10%	0%
ドライブ	19%	15%	5%	0%
スポーツ・文化活動	1%	1%	3%	0%
家族や友人に会う	2%	3%	6%	0%
その他	6%	9%	4%	0%
未回答	0%	0%	0%	0%

(N=592)

【旅行目的_年齢別】

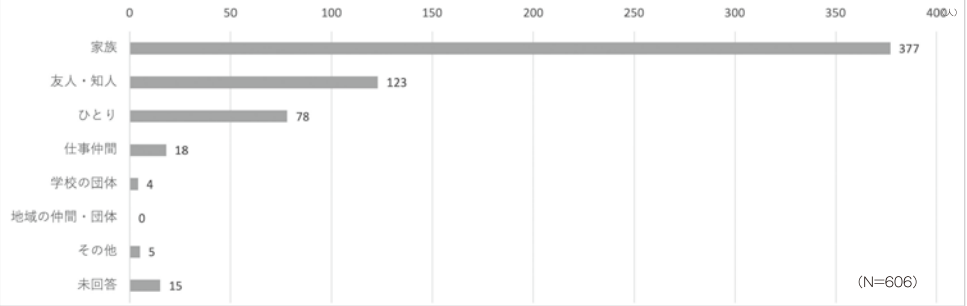
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
観光	67%	46%	46%	49%	51%	62%	65%	25%
仕事	0%	12%	5%	5%	7%	4%	2%	0%
飲食	25%	4%	7%	9%	5%	5%	7%	0%
買い物	17%	12%	19%	14%	16%	12%	7%	0%
キャンプ	25%	12%	13%	10%	8%	4%	0%	0%
温泉	8%	6%	5%	11%	6%	12%	20%	25%
イベント参加	0%	0%	1%	1%	1%	0%	2%	0%
冠婚葬祭	0%	0%	1%	0%	0%	1%	0%	0%
新千歳空港利用	0%	4%	5%	4%	3%	6%	13%	0%
ドライブ	0%	11%	11%	8%	18%	15%	20%	50%
スポーツ・文化活動	0%	4%	0%	2%	0%	3%	2%	0%
家族や友人に会う	0%	5%	4%	2%	5%	4%	4%	0%
その他	17%	5%	5%	9%	2%	6%	7%	50%
未回答	0%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

(N=575)

■回答者の同行者構成(複数回答)について

- ・ 回答者の同行者構成は、「家族」と一緒に来られる方が一番多く、377人である。その次に多いのは「友人・知人」との来訪である。

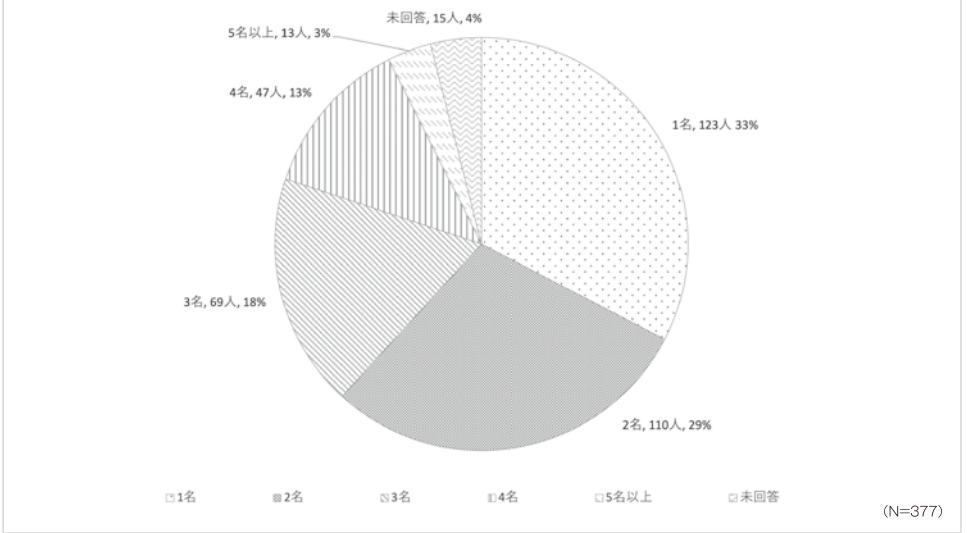
【同行者_全回答者】



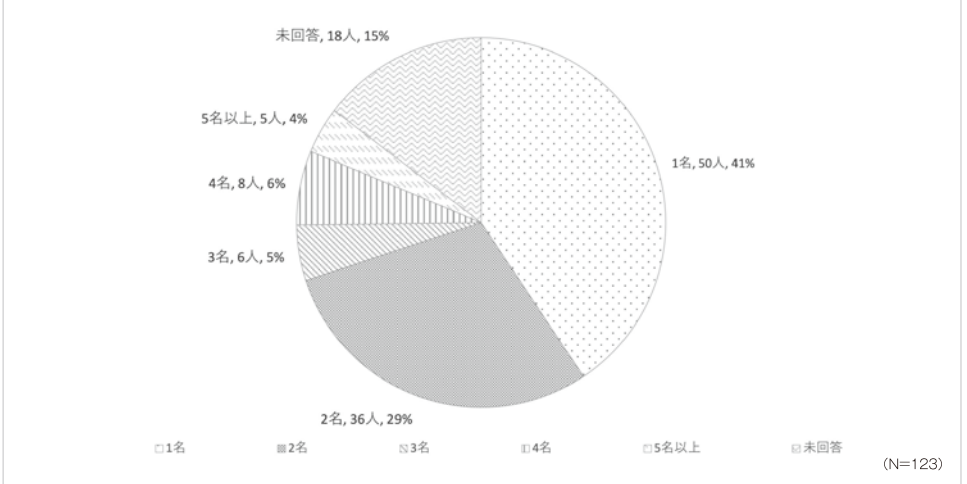
■回答者の同行者構成(複数回答)について

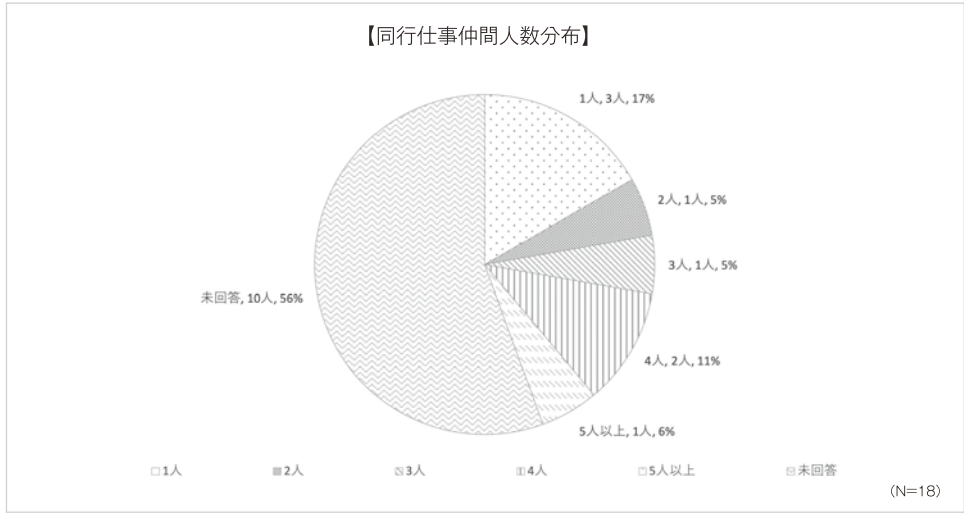
- ・ 「同行家族人数の分布」について、回答者を人数から除く「1名」との来訪が一番多く、123人で全体の33%を占めている。その次に多いのは回答者を人数から除く「2名」との来訪であり、全体の29%を占めている。
- ・ 「同行友人・知人人数の分布」について、回答者を人数から除く「1名」との来訪が一番多く、50人で全体の41%を占めている。その次に多いのは回答者を人数から除く「2名」との来訪であり、全体の29%を占めている。
- ・ 「同行仕事仲間人数の分布」について、回答者を人数から除く「1名」との来訪が一番多く、全体の17%を占めている。

【同行家族人数分布】



【同行友人・知人人数分布】



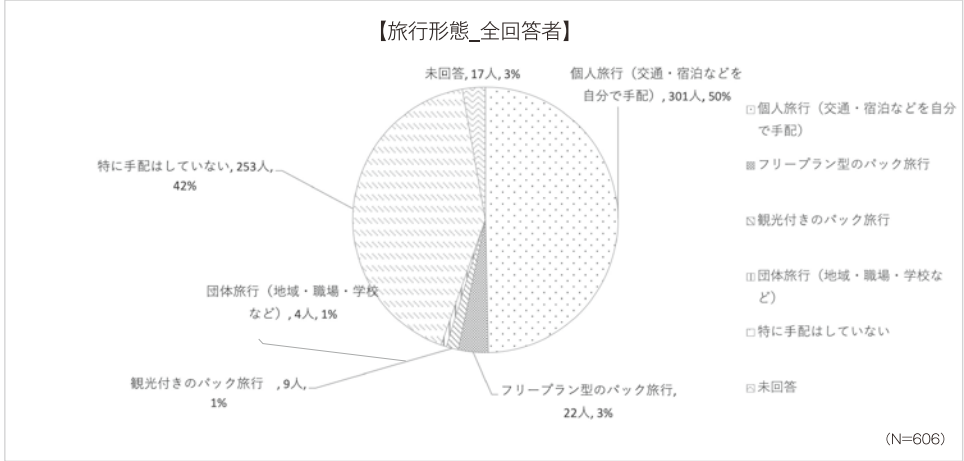


■回答者旅行形態について

- ・ 回答者の旅行形態は「個人旅行」の方が一番多く、301人で全体の50%を占めている。その次に多いのは「特に手配はしていない」方で253人となり、全体の42%を占めている。

ー新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、旅行会社の大人数規模の団体旅行を控えているのが「個人旅行」割合の多い原因の一つであり、また近年における観光動向では、団体旅行が減少し、家族や友人・知人等と出かける個人・小グループ旅行が増加し、個人手配の利用が増えている。

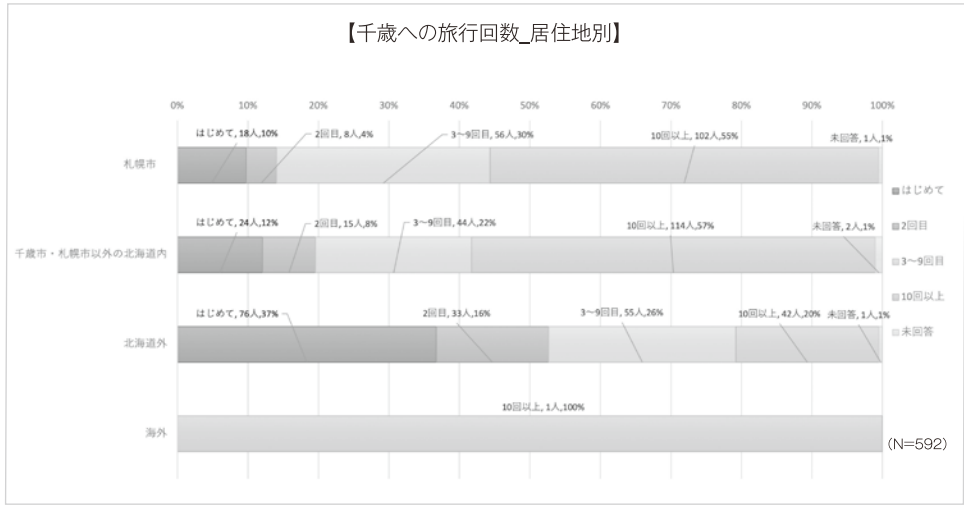
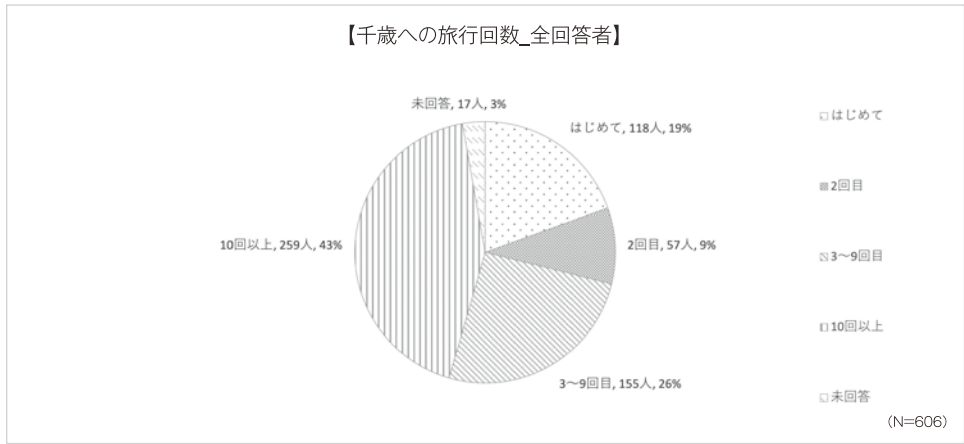
ー居住地別では、「北海道外」居住の方の「個人旅行」（交通・宿泊等を自分で手配）の割合は70%を超える結果となった。



■回答者の千歳への旅行回数について

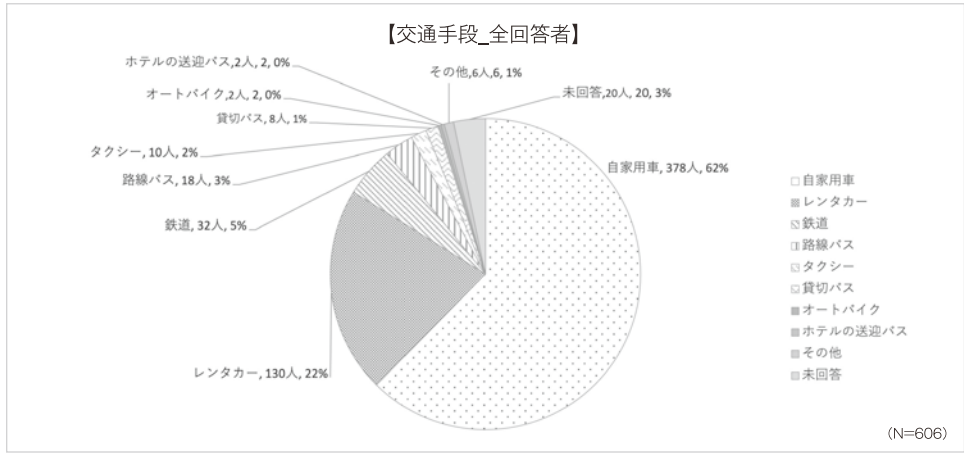
- ・ 回答者の千歳への旅行回数は、「10回以上」の方が一番多く、259人であり全体の43%を占めている。その次に多いのは「3～9回目」であり、155人で全体の26%を占めている。
- ・ 居住地別に見ると、「札幌市」「千歳市・札幌市以外の道内」居住の方は「10回以上」の訪問が多く、「札幌市」居住の方は55%、「千歳市・札幌市以外の道内」居住の方は57%を占めている。「北海道外」居住の方は「はじめて」の訪問が一番多く、37%を占めている。その次に多いのは「3～9回目」の訪問である。

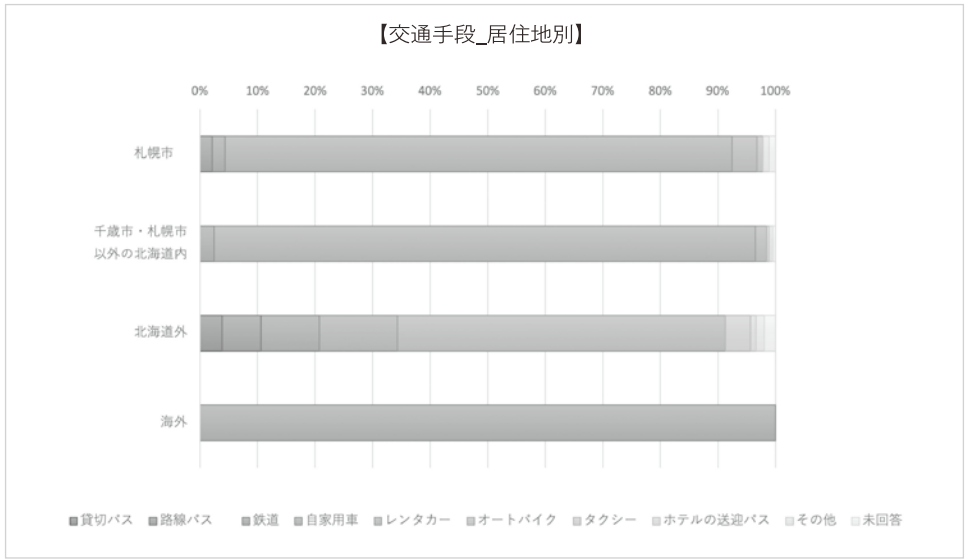
ー居住地問わず、千歳来訪のリピーター率が全体的に高い。



■回答者北海道到着後の交通手段について

- ・ 回答者の交通手段について、「自家用車」利用の方が一番多く、378人で全体の62%を占めている。その次に多いのは「レンタカー」であり、130人で全体の22%を占めている。
- ・ 居住地別に見ると、「札幌市」「千歳市・札幌市以外の道内」居住の方は「自家用車」の利用が一番多く、「札幌市」居住の方は88%、「千歳市・札幌市以外の道内」居住の方は94%を占めている。「北海道外」居住の方は「レンタカー」の利用が一番多く、57%を占めている。その次に多いのは「自家用車」である。

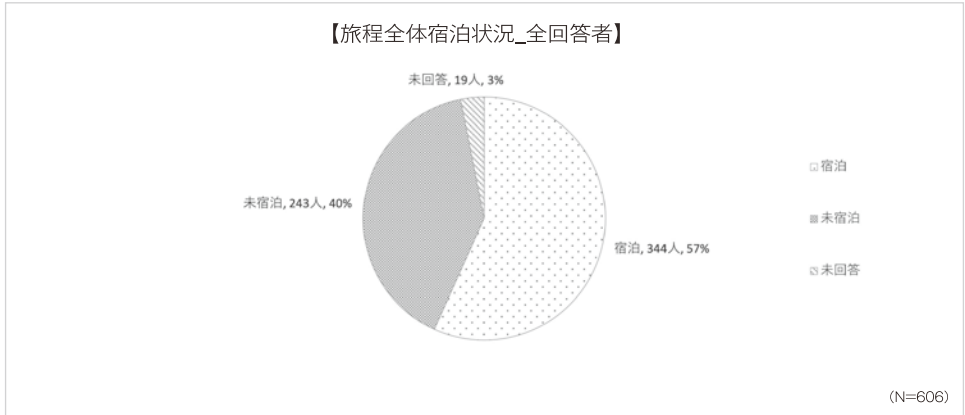




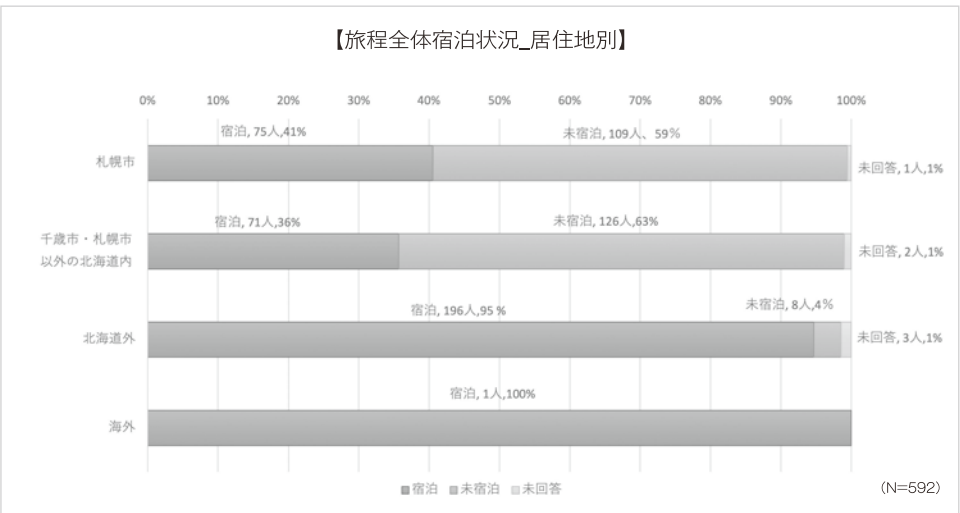
(N=592)

■旅程全体宿泊状況について

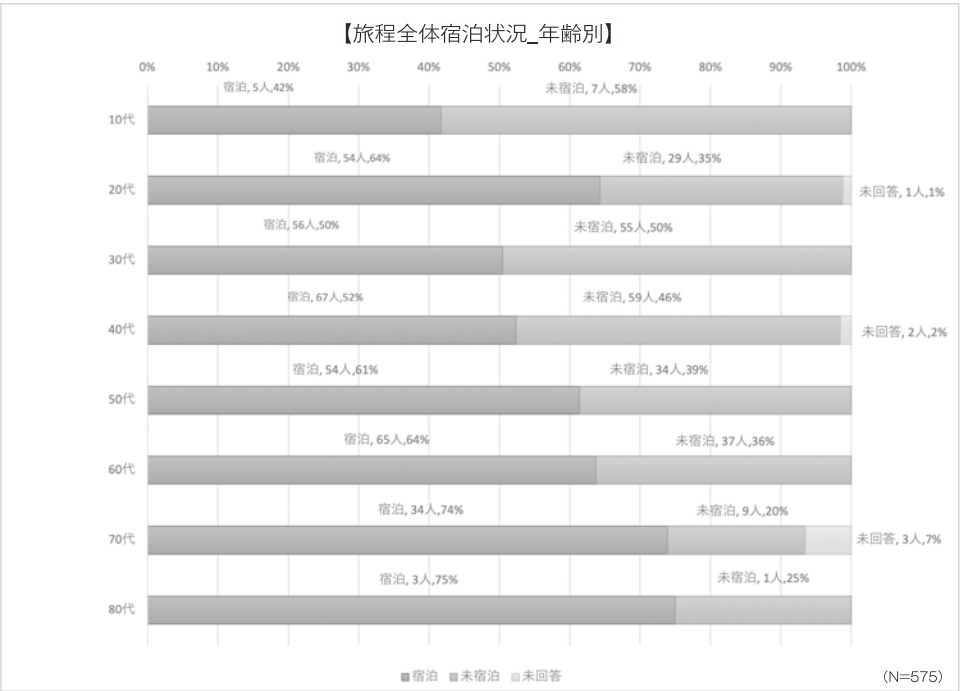
- ・ 旅程全体の宿泊状況について、宿泊した方が多く、344人で全体の57%を占めている。
- ・ 居住地別に見ると、「札幌市」居住の方の宿泊率は41%、「千歳市・札幌市以外の北海道内」居住の方の宿泊率は36%、「北海道外」居住の方の宿泊率は95%である。
- ・ 年齢別に見ると、「80代」と「70代」の方の宿泊率が高く、「80代」の方は75%、「70代」の方は74%を占めている。また、「10代」の方の宿泊率が一番低く、42%に留まっている。



(N=606)



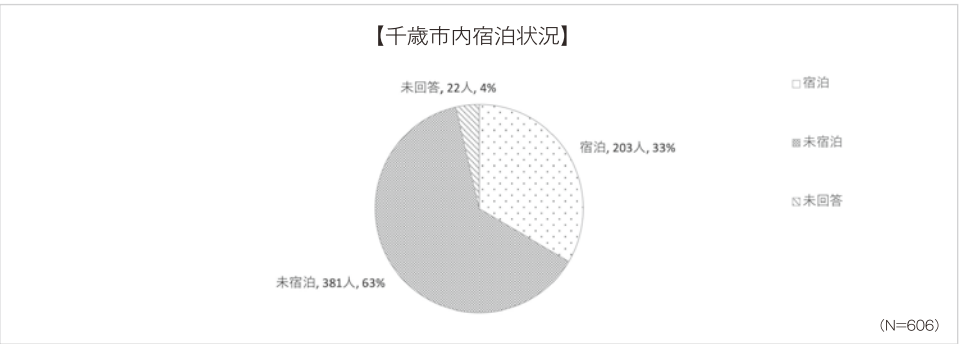
(N=592)



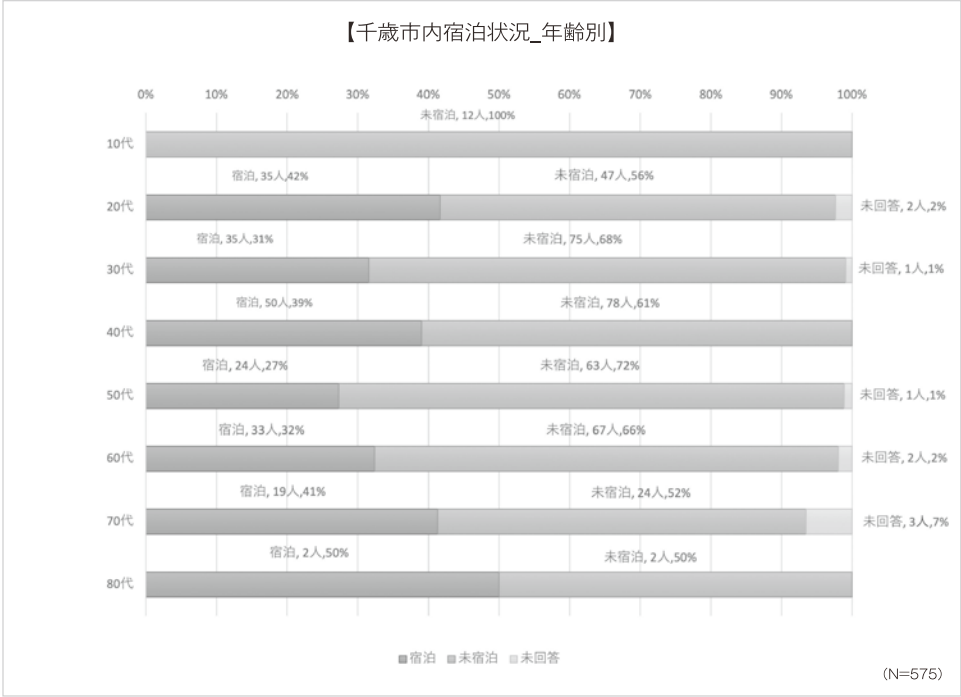
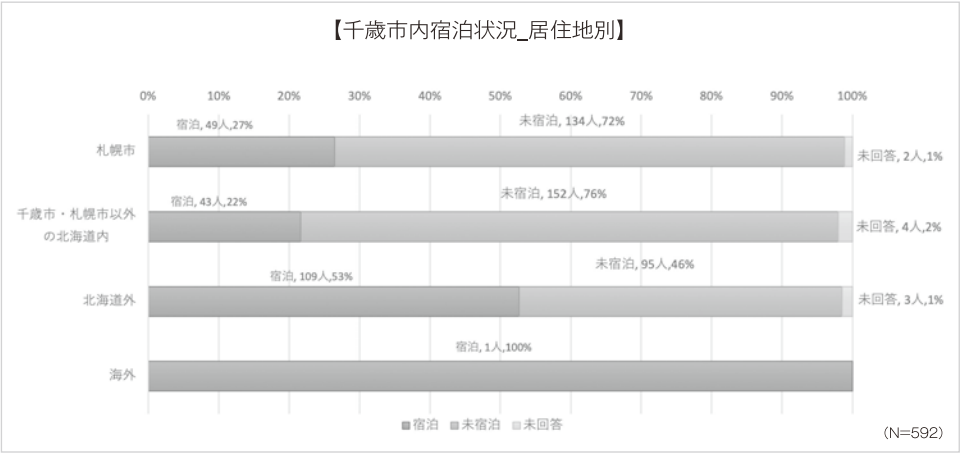
(N=575)

■千歳市内宿泊状況について

- ・ 千歳市内での宿泊状況について、未宿泊の方が多く、381人で全体の63%を占めている。
- ・ 居住地別に見ると、「札幌市」居住の方の宿泊率は26%、「千歳市・札幌市以外の北海道内」居住の方の宿泊率は22%、「北海道外」居住の方の宿泊率は53%である。
- ・ 年齢別に見ると、「80代」の宿泊率が一番高く、50%を占めている。また、「50代」の宿泊率が一番低く、27%に留まっている。

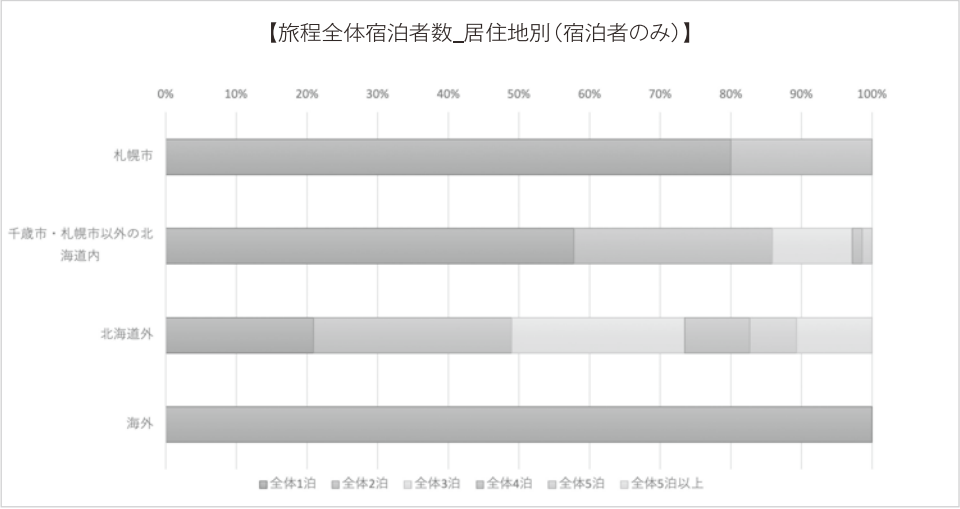
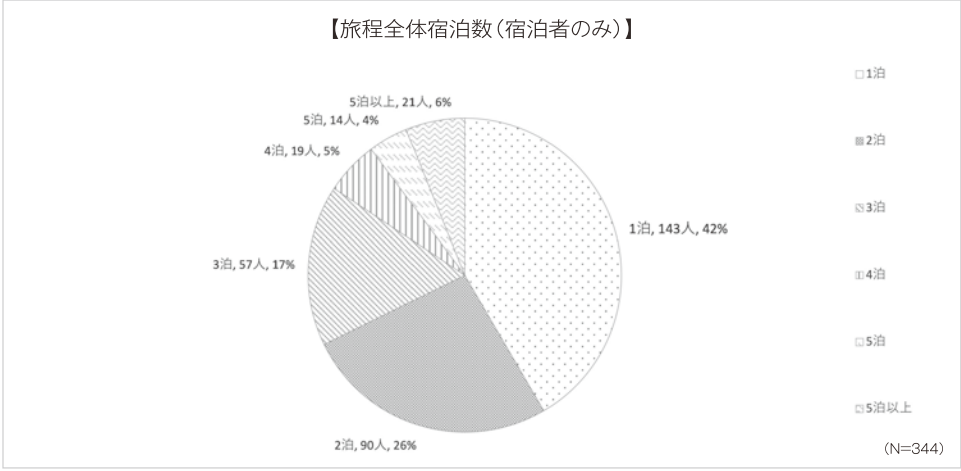


(N=606)



■宿泊者の旅程全体宿泊数について

- ・ 宿泊した方の旅程全体の宿泊数について、「1泊」した方が一番多く、143人で全体の42%を占めている。その次に多いのが「2泊」した方であり、90人で26%を占めている。
- ・ 居住地別に見ると、「札幌市」居住の方は「1泊」した方が一番多く、79%を占めている。「千歳市・札幌市以外の北海道内」居住の方は「1泊」した方が一番多く、56%を占めている。「北海道外」居住の方は「2泊」した方が一番多く、28%を占めている。その次に多いのが「3泊」した方で24%を占めている。

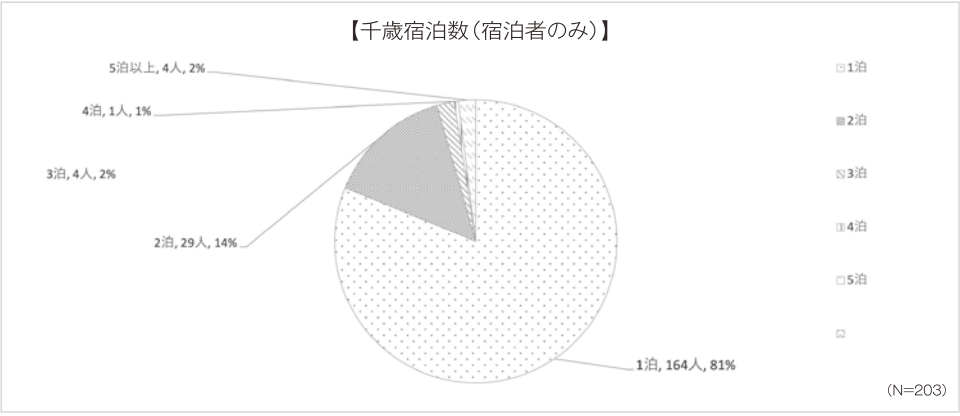


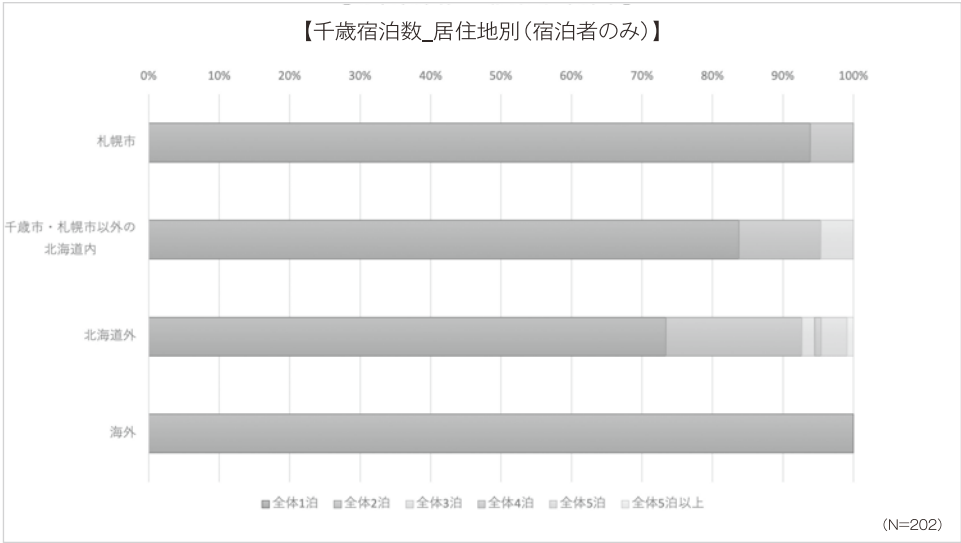
	1泊	2泊	3泊	4泊	5泊	5泊以上
札幌市	80%	20%	0%	0%	0%	0%
千歳市・札幌市以外の北海道内	58%	28%	12%	1%	1%	0%
北海道外	21%	28%	24%	9%	7%	11%
海外	100%	0%	0%	0%	0%	0%

(N=203)

■宿泊者の千歳宿泊数について

- ・ 千歳で宿泊した方の宿泊数について、「1泊」した方が一番多く、164人で全体の81%を占めている。その次に多いのが「2泊」した方であり、29人で全体の14%を占めている。
- ・ 居住地別から見ると、「1泊」した方の割合が一番高いのは「札幌市」居住の方であり、約90%を占めている。「2泊」した方の割合が一番高いのは「北海道外」居住の方であり、約19%を占めている。





	全体1泊	全体2泊	全体3泊	全体4泊	全体5泊	全体5泊以上
札幌市	94%	6%	0%	0%	0%	0%
千歳市・札幌市以外の北海道内	84%	11%	5%	0%	0%	0%
北海道外	73%	19%	2%	1%	4%	1%
海外	100%	0%	0%	0%	0%	0%

(N=202)

■回答者の平均宿泊数について

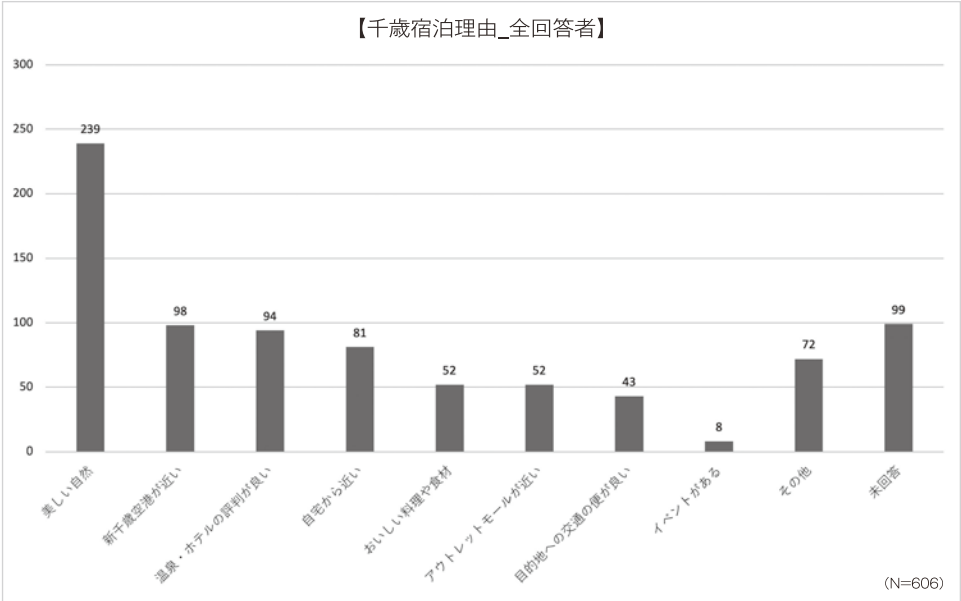
- ・ 回答者の一人当たりの平均旅程全体宿泊数は1.46泊で、うち道内客の平均旅程全体宿泊数は0.53泊で、道外客は3.19泊である。
- ・ 回答者の一人当たりの平均千歳宿泊数は0.45泊で、うち道内客の平均千歳宿泊数は0.28泊で、道外客は0.78泊である。

	全回答者	道内客	道外客
一人当たりの平均旅程全体宿泊数	1.46 (N=592)	0.53 (N=384)	3.19 (N=208)

	全回答者	道内客	道外客
一人当たりの平均千歳宿泊数	0.45 (N=592)	0.28 (N=384)	0.78 (N=208)

■千歳を旅先(宿泊先)として選んだ理由について

- ・ 千歳を旅先(宿泊先)として選んだ理由として、「美しい自然」と回答した方が一番多く、2番目に多いのが「新千歳空港が近い」、3番目に多いのが「温泉・ホテルの評判が良い」である。
- ・ 居住地別に見ると、「札幌市」「千歳市・札幌市以外の北海道内」「北海道外」居住の全てで「美しい自然」が一番の理由である。一方、「おいしい料理や食材」を選んだ方の割合が低い。
- ・ 千歳の食材を使った料理等「食」に関する情報発信が必要だと考えられる。



	札幌市	千歳市・札幌市以外の北海道内	北海道外	海外
美しい自然	48%	29%	45%	0%
温泉・ホテルの評判が良い	8%	11%	28%	0%
おいしい料理や食材	7%	8%	11%	0%
新千歳空港が近い	6%	8%	33%	100%
目的地への交通の便が良い	6%	7%	8%	100%
自宅から近い	25%	16%	0%	100%
イベントがある	2%	1%	1%	0%
アウトレットモールが近い	10%	15%	2%	0%
その他	11%	12%	14%	0%
未回答	17%	18%	9%	0%

(N=575)

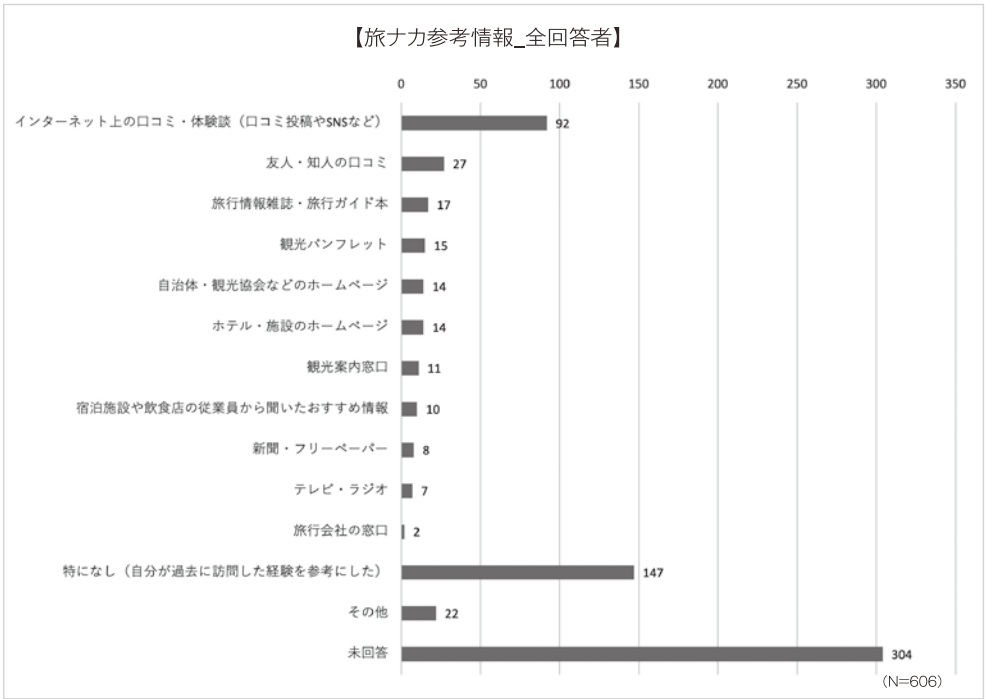
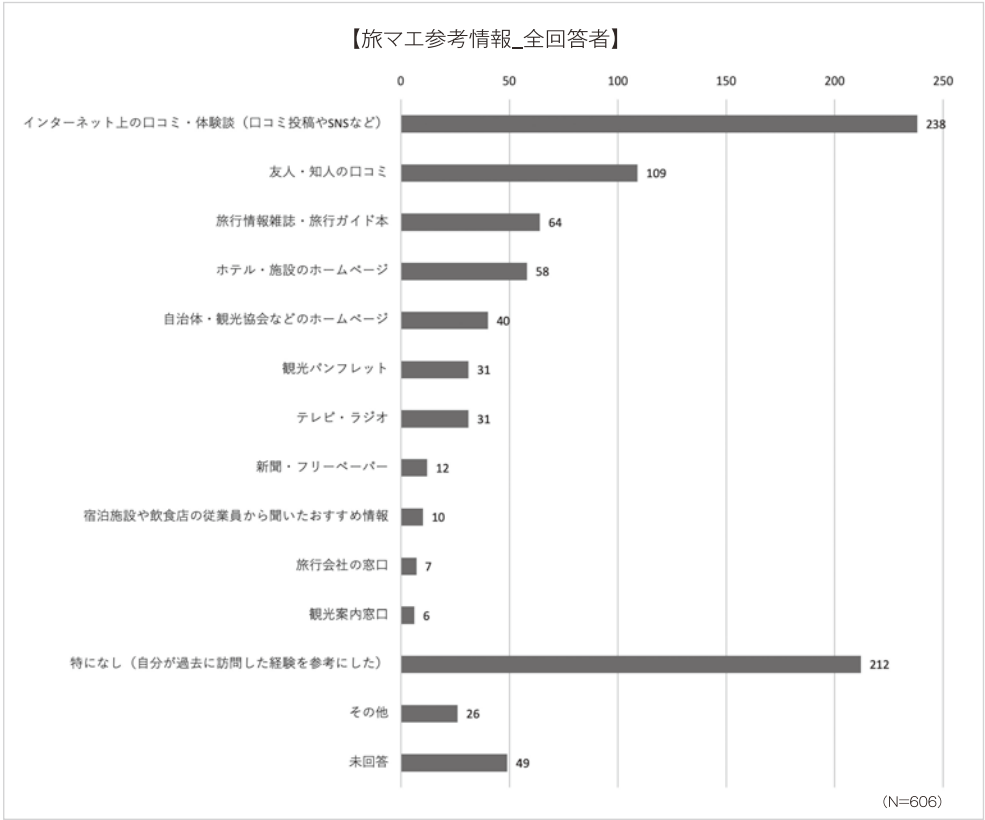
■旅行情報収集方法(旅マエ)について

- ・ 旅マエの参考情報について、「インターネット上の口コミ・経験談」を選んだ方が一番多い。2番目に多いのが「特になし(自分が過去訪問した経験を参考にした)」であり、3番目に多いのが「友人・知人の口コミ」である。
- ・ 「口コミ」から情報収集する方が多く、満足度の向上又は口コミしていただけるようなイベントの開催が誘客に有効だと考えられる。
- ・ 一事前に情報収集していない方が多いと見られ、地域の最新観光情報が届いていない可能性が高い。SNS等を活用し、継続的に地域の新規観光コンテンツの情報発信が重要だと考えられる。

■旅行情報収集方法(旅ナカ)について

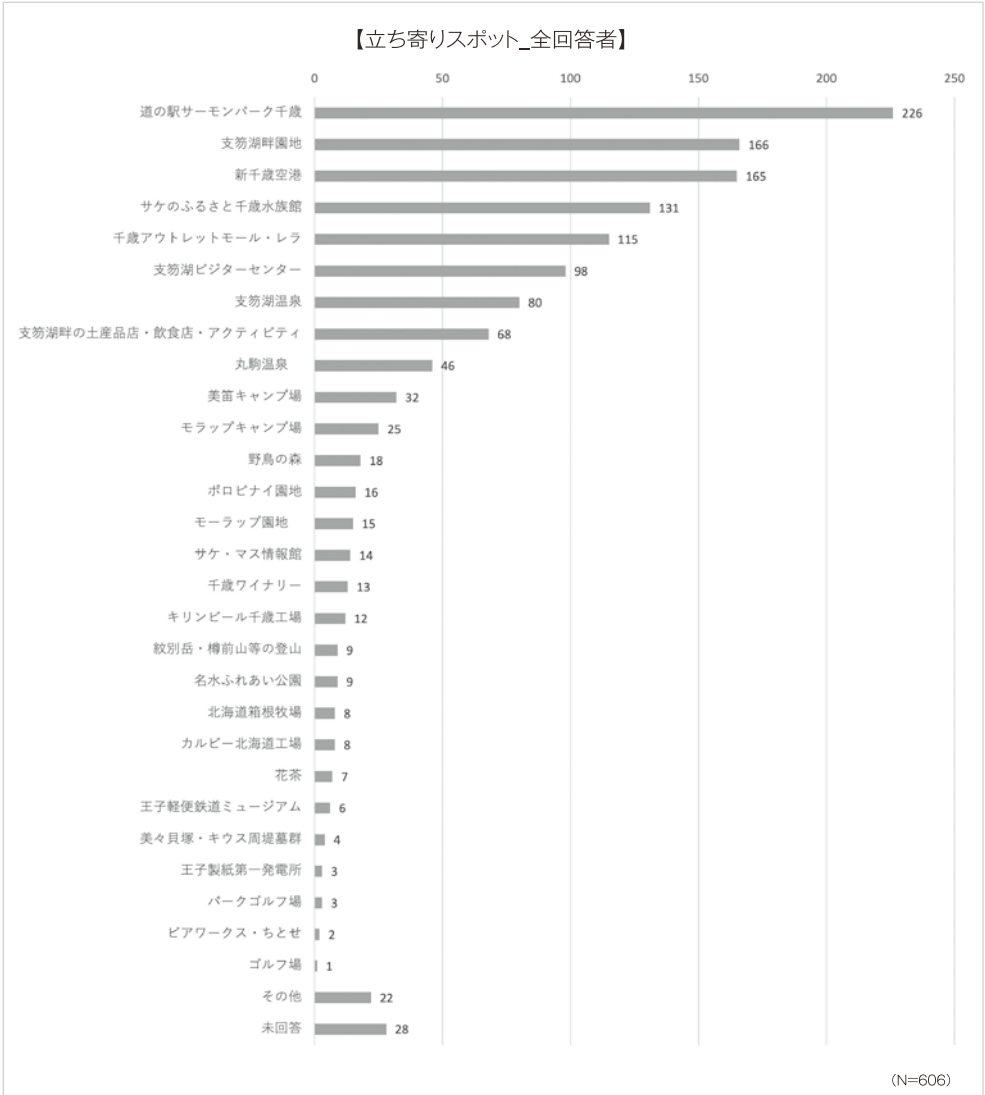
- ・ 旅ナカの参考情報について、「特になし(自分が過去に訪問した経験を参考した)」を選んだ方が一番多く、2番目に多いのが「インターネット上の口コミ・経験談」を選んだ方が一番多い。3番目に多いのが「友人・知人の口コミ」である。

一現状多くの方は旅中での情報収集を行っていないと見られる。観光案内所、観光パンフレットの機能を活かし、より多くのスポットに立ち寄って頂き、滞在中の消費額向上のための情報発信が必要だと考えられる。



■立ち寄りスポットについて

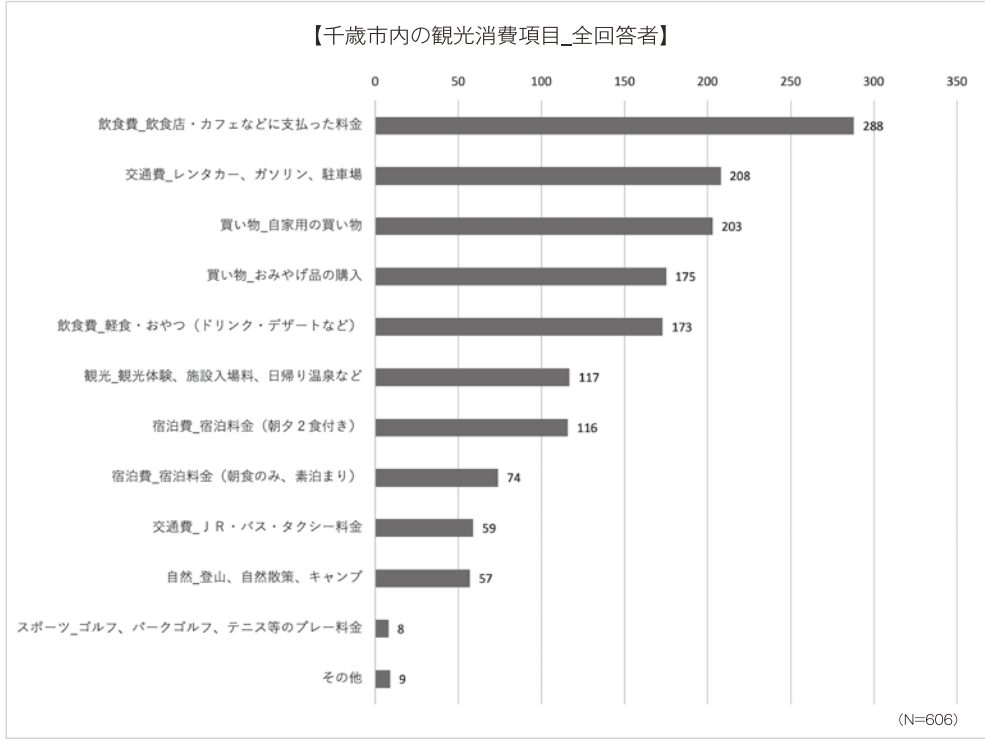
- ・立ち寄りスポットについて、「道の駅サーモンパーク千歳」を選んだ方が一番多く、2番目に多いのが「支笏湖畔園地」であり、3番目に多いのが「新千歳空港」である。



■観光行動について

- ・ 観光消費の項目について、「飲食店・カフェなど」で消費した方が一番多く、2番目に多いのが「レンタカー・ガソリン・駐車場代」、3番目に多いのが「自家用の買い物」である。
- ・ 「その他」を除き、一番少ないのは「登山、自然散策、キャンプ」であり、2番目に少ないのが「JR、バス、タクシー料金」、3番目に少ないのが「朝食のみ、素泊まりの宿泊料金」である。

一千歳を旅行先（宿泊先）を選んだ理由として「自然が美しい」が一番多いものの、自然での消費額が少ない、自然資源を活かした体験コンテンツの充実又その情報発信が重要だと考えられる。



■消費額について

- ・ 回答者の一人当たりの平均消費額は12,573円であり、うち道内客は8,321円で、道外客は32,481円である。

	全回答者	道内客	道外客
一人当たりの平均消費金額	¥12,573 (N=592)	¥8,321 (N=384)	¥32,481 (N=208)

項目	全回答者	道内客	道外客
宿泊料金（朝夕2食付き）	¥24,341 (N=85)	¥22,268 (N=33)	¥25,656 (N=52)
宿泊料金（朝食のみ、素泊まり）	¥9,965 (N=54)	¥7,593 (N=27)	¥12,337 (N=27)
飲食費（飲食店・カフェなどに支払った料金）	¥3,621 (N=283)	¥2,867 (N=162)	¥4,630 (N=121)
飲食費（軽食・おやつ（ドリンク・デザートなど））	¥1,597 (N=166)	¥1,410 (N=96)	¥1,852 (N=70)
交通費（JR・バス・タクシー料金）	¥2,784 (N=56)	¥2,577 (N=10)	¥2,830 (N=46)
交通費（レンタカー・ガソリン・駐車場）	¥7,592 (N=190)	¥2,722 (N=106)	¥13,737 (N=84)
買い物（自家用の買い物）	¥5,902 (N=191)	¥5,361 (N=127)	¥6,975 (N=64)
買い物（おみやげ品の購入）	¥5,750 (N=160)	¥3,368 (N=61)	¥7,218 (N=99)
観光体験、施設入場料、日帰り温泉など	¥2,328 (N=109)	¥1,629 (N=63)	¥3,285 (N=46)
ゴルフ、パークゴルフ、テニス等のプレー料金	¥12,800 (N=5)	¥1,500 (N=1)	¥15,625 (N=4)
登山、自然散策、キャンプ	¥3,670 (N=44)	¥3,359 (N=39)	¥6,100 (N=5)
その他	¥1,967 (N=7)	¥1,967 (N=7)	－ (N=0)

【算出前提】

居住地回答なし（14件）は算出に含めない。千歳市以外の居住地のみを算出対象とする。

各項目の平均消費金額は、該当する支出を行った回答者の平均金額であり、合計平均消費額と一致しない。

無回答は費用「0円」とする。

平均消費額は、観光客全体、各項目共にバック料金を除いた額で集計。

割引クーポンを利用した回答者の宿泊料金は、「ちとせ割」を利用したとして支払額に5,000円上乗せしている。

■消費額（宿泊者）について

- ・ 宿泊者の一人当たりの平均消費額は26,760円であり、うち道内客は13,504円で、道外客は38,691円である。

	全回答者	道内客	道外客
一人当たりの平均消費金額	¥26,760 (N=152)	¥13,504 (N=72)	¥38,691 (N=80)

※「千歳市内の消費額合計」における無回答は母数(N)から除いている。

項目	全回答者	道内客	道外客
宿泊料金(朝夕2食付き)	¥24,341 (N=85)	¥22,268 (N=33)	¥25,656 (N=52)
宿泊料金(朝食のみ、素泊まり)	¥9,965 (N=54)	¥7,593 (N=27)	¥12,337 (N=27)
飲食費(飲食店・カフェなどに支払った料金)	¥4,037 (N=115)	¥3,623 (N=35)	¥4,219 (N=80)
飲食費(軽食・おやつ(ドリンク・デザートなど))	¥1,947 (N=71)	¥1,685 (N=26)	¥2,099 (N=45)
交通費(JR・バス・タクシー料金)	¥2,910 (N=35)	¥4,500 (N=4)	¥2,705 (N=31)
交通費(レンタカー・ガソリン・駐車場)	¥10,452 (N=82)	¥4,505 (N=32)	¥14,258 (N=50)
買い物(自家用の買い物)	¥5,492 (N=63)	¥4,043 (N=23)	¥6,325 (N=40)
買い物(おみやげ品の購入)	¥7,416 (N=75)	¥3,750 (N=16)	¥8,410 (N=59)
観光体験、施設入場料、日帰り温泉など	¥2,594 (N=39)	¥1,755 (N=11)	¥2,923 (N=28)
ゴルフ、パークゴルフ、テニス等のプレー料金	¥12,250 (N=4)	¥1,500 (N=1)	¥15,833 (N=3)
登山、自然散策、キャンプ	¥3,530 (N=30)	¥3,016 (N=25)	¥6,100 (N=5)
その他	¥2,190 (N=3)	¥2,190 (N=3)	－ (N=0)

【算出前提】

居住地回答なし(14件)は算出に含めない。千歳市以外の居住地のみを算出対象とする。

各項目の平均消費金額は、該当する支出を行った回答者の平均金額であり、合計平均消費額と一致しない。

無回答は費用「0円」とする。

平均消費額は、観光客全体、各項目共にバック料金を除いた額で集計。

割引クーポンを利用した回答者の宿泊料金は、「ちとせ割」を利用したとして支払額に5,000円上乘せしている。

■消費額（未宿泊者）について

- ・ 回答者の一人当たりの平均消費額は8,860円であり、うち道内客は5,591円で、道外客は18,703円である。

	全回答者	道内客	道外客
一人当たりの平均消費金額	¥8,860 (N=381)	¥5,591 (N=286)	¥18,703 (N=95)

項目	全回答者	道内客	道外客
宿泊料金(朝夕2食付き)	－ (N=0)	－ (N=0)	－ (N=0)
宿泊料金(朝食のみ、素泊まり)	－ (N=0)	－ (N=0)	－ (N=0)
飲食費(飲食店・カフェなどに支払った料金)	¥3,336 (N=168)	¥2,659 (N=127)	¥5,434 (N=41)
飲食費(軽食・おやつ(ドリンク・デザートなど))	¥1,334 (N=95)	¥1,308 (N=70)	¥1,408 (N=25)
交通費(JR・バス・タクシー料金)	¥2,575 (N=21)	¥1,295 (N=6)	¥3,087 (N=15)
交通費(レンタカー・ガソリン・駐車場)	¥5,420 (N=108)	¥1,951 (N=74)	¥12,971 (N=34)
買い物(自家用の買い物)	¥6,103 (N=128)	¥5,652 (N=104)	¥8,058 (N=24)
買い物(おみやげ品の購入)	¥4,280 (N=85)	¥3,232 (N=45)	¥5,460 (N=40)
観光体験、施設入場料、日帰り温泉など	¥2,180 (N=70)	¥1,603 (N=52)	¥3,847 (N=18)
ゴルフ、パークゴルフ、テニス等のプレー料金	¥15,000 (N=1)	－ (N=0)	¥15,000 (N=1)
登山、自然散策、キャンプ	¥3,971 (N=14)	¥3,971 (N=14)	－ (N=0)
その他	¥1,800 (N=4)	¥1,800 (N=4)	－ (N=0)

【算出前提】

居住地回答なし(14件)は算出に含めない。千歳市以外の居住地のみを算出対象とする。

各項目の平均消費金額は、該当する支出を行った回答者の平均金額であり、合計平均消費額と一致しない。

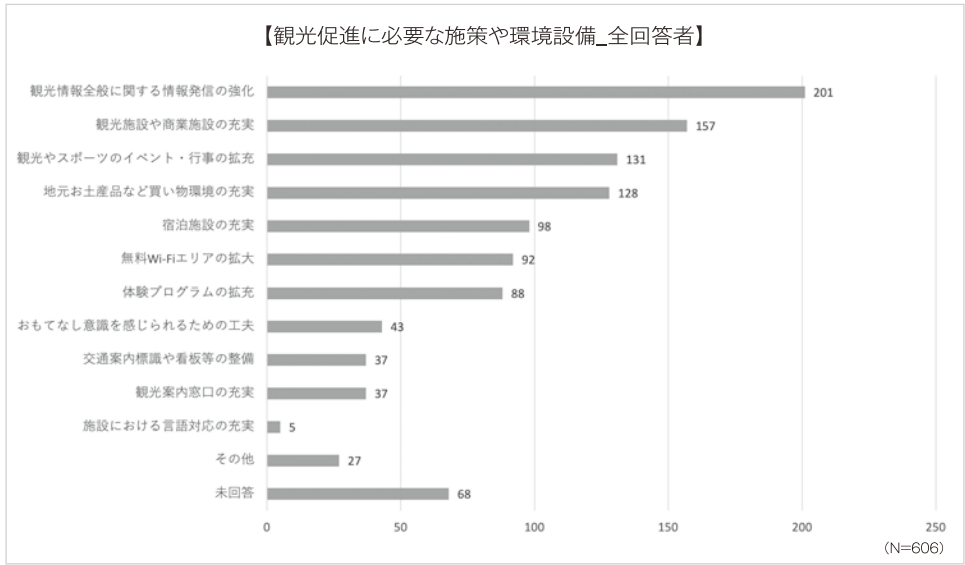
無回答は費用「0円」とする。

平均消費額は、観光客全体、各項目共にバック料金を除いた額で集計。

割引クーポンを利用した回答者の宿泊料金は、「ちとせ割」を利用したとして支払額に5,000円上乘せしている。

■千歳観光促進に必要な施策や環境整備について

- ・観光促進に必要な施策や環境整備について、「観光情報全般に関する情報発信の強化」を回答した方が一番多く、2番目に多いのが「観光施設や商業施設の充実」であり、3番目に多いのが「観光やスポーツのイベント・行事の拡充」である。



千歳市観光客調査（令和3年度）

調査時期	調査地点

問1.あなた自身について教えてください(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

- 【問1-1. 居住地】1.千歳市 2.札幌市 3.千歳市・札幌市以外の北海道内
4.北海道外(都府県名:) 5.海外(国および地域名:)
- 【問1-2. 性別】1.男性 2.女性 3.その他 4.回答しない
- 【問1-3. 年齢】1.10代 2.20代 3.30代 4.40代 5.50代
6.60代 7.70代 8.80歳以上

※千歳市民の方は、ここで質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

問2.今回、千歳市を来訪した目的は何ですか。あてはまる番号を全て選んで○をつけてください。
また、そのうち主たる目的(1つ)には◎をつけてください。

- 1.観光 2.仕事 3.飲食 4.買い物
5.キャンプ 6.温泉 7.イベント参加 8.冠婚葬祭
9.新千歳空港利用 10.ドライブ 11.スポーツ・文化活動 12.家族や友人に会う
13.その他(具体的に:)

問3.今回、どなたと来られましたか(あてまるものに○) ※ご自身を除いた人数を記入してください。

- 1.ひとり 2.家族(人) 3.友人・知人(人) 4.仕事仲間(人)
5.地域の仲間・団体 6.学校の団体 7.その他()

問4.今回のご旅行は、どういった形態ですか(あてまるもの1つに○)

- 1.個人旅行(交通・宿泊などを自分で手配) 2.フリープラン型のパック旅行
3.観光付きのパック旅行 4.団体旅行(地域・職場・学校など) 5.特に手配はしていない

問5.千歳市を旅行するのは、これが何回目ですか ※空港や鉄道駅などの利用のみによる立寄り除きます。

- 1.初めて 2.2回目 3.3～9回目 4.10回目以上

問6.主な利用交通手段(北海道外からお越しの方は北海道に到着後の交通手段、主なものを1つに○)

- 1.貸切バス 2.路線バス 3.鉄道 4.自家用車 5.レンタカー
6.オートバイ 7.タクシー 8.ホテルの送迎バス 9.その他()

問7.今回の旅行で、千歳市の直前に訪問した地域、また、千歳市の直後に訪問する地域について、
それぞれ1つ選んで番号を記入してください。

- 【問7-1】千歳市の直前に訪問した地域 ()
【問7-2】千歳市の直後に訪問する地域 ()
- 1.新千歳空港 2.札幌 3.小樽 4.登別・洞爺湖 5.二セコ・羊蹄 6.函館
7.旭川 8.富良野・美瑛 9.帯広 10.その他() 11.なし(ご自宅)

問8.旅行日程(旅行全体の宿泊数と、そのうち千歳市での宿泊数) ※日帰りの場合は「0泊」

- 【問8-1】旅行全体の宿泊数 (泊)
【問8-2】そのうち千歳市内での宿泊数 (泊) →千歳市内に宿泊した方は問9をお答えください

問9.千歳市を旅行先(宿泊先)に選んだ理由は何ですか。(該当するものに全て○)

- 1.美しい自然
- 2.温泉・ホテルの評判が良い
- 3.おいしい料理や食材
- 4.新千歳空港が近い
- 5.目的地への交通の便が良い
- 6.自宅から近い
- 7.イベントがある
- 8.アウトレットモールが近い
- 9.その他()

問10.今回の旅行の計画中や、千歳滞在中に、どのような情報を参考にしましたか。計画中・滞在中に参考になった情報を全て選んで○を付けてください。

	旅行計画中に参考にした情報	千歳滞在中に参考にした情報
1. 友人・知人の口コミ	1	1
2. インターネット上の口コミ・体験談(口コミ投稿やSNSなど)	2	2
3. 旅行情報雑誌・旅行ガイド本	3	3
4. 新聞・フリーペーパー	4	4
5. 旅行会社の窓口	5	5
6. 観光パンフレット	6	6
7. テレビ・ラジオ	7	7
8. 自治体・観光協会などのホームページ	8	8
9. ホテル・施設のホームページ	9	9
10. 観光案内窓口	10	10
11. 宿泊施設や飲食店の従業員から聞いたおすすめ情報	11	11
12. 特になし(自分が過去に訪問した経験を参考にした)	12	12
13. その他()	13	13

問11.千歳市内で、次にあげる観光スポットのうち、今回のご旅行でどちらに立ち寄りましたか(または、立ち寄る予定ですか)。あてはまる番号全てに○をつけてください。

支笏湖周辺、自然・景観・歴史資源	1. 支笏湖畔園地 4. 支笏湖畔の土産品店・飲食店・アクティビティ 6. ポロピナイ園地 9. 野鳥の森	2. 支笏湖ビジターセンター 5. 王子製紙第一発電所 7. モーラップ園地 10. 名水ふれあい公園	3. 王子軽便鉄道ミュージアム 8. 紋別岳・樽前山等の登山 11. 美々貝塚・キウス周堤墓群
道の駅・市街地周辺	12. 道の駅サーモンパーク千歳 14. サケ・マス情報館	13. サケのふるさと千歳水族館 15. ビアワークス・ちとせ	
温泉(宿泊・日帰り入浴)	16. 支笏湖温泉	17. 丸駒温泉	18. 松原温泉
キャンプ場	19. 美笛キャンプ場	20. モラップキャンプ場	
農業観光・工場見学	21. 北海道箱根牧場 23. 花茶 26. カルビー北海道工場	22. ふれあいファームいずみ 24. キリンビール千歳工場 27. 千歳ワイナリー	25. キッコーマン千歳工場
その他	28. 新千歳空港 31. 千歳アウトレットモール・レラ	29. ゴルフ場 32. その他()	30. パークゴルフ場

問12.今回の旅行の費用のうち、千歳市内で一人あたり(乳幼児を除く)いくらぐらい使いますか(使いましたか)。新千歳空港での飲食・お土産品購入を含めてご記入ください。

※下記の観光行動について、支出が「1.ある」「2.ない」のいずれかを回答し、支出が「1.ある」行動については、支払金額を記入してください。

※千歳市内での消費金額を記入してください。千歳市内には「新千歳空港」「支笏湖」「農村地区」を含みます。

※宿泊・レンタカー・ゴルフなどがバック料金に含まれる場合は、バック料金に含まれる支出項目の支払金額欄にそれぞれ「バック」と記入し、バック料金を問13で回答してください。

※「ちとせ割」等の割引クーポンを適用している場合は、割引後の金額を記入し、キャンペーン使用の欄「1.利用した」に○をつけてください。

観光行動と支出の有無			支払金額（一人あたりの金額）	補足
宿泊費	宿泊料金（朝タ2食付き）	1. ある 2. ない	円	複数泊の場合は市内泊の合計金額 レストランでの追加注文分も含む バック料金に含まれる場合は「バック」と記入
	宿泊料金（朝タ2食付き）	1. ある 2. ない	円	
	割引クーポンの利用	1. 利用した 2. 利用していない		
飲食費	飲食店・カフェなどに支払った料金	1. ある 2. ない		宿泊費に含まれない食事代を含む
	軽食・おやつ（ドリンク・デザートなど）	1. ある 2. ない	円	ホテルや空港売店、道の駅、コンビニ、自動販売機等での購入金額
交通費	JR・バス・タクシー料金	1. ある 2. ない	円	千歳市内の移動に要した料金 タクシーは乗車人数で割った料金
	レンタカー、ガソリン、駐車場	1. ある 2. ない	円	レンタカー1台あたりの料金 バック料金に含まれる場合は「バック」と記入
買い物	自家用の買い物	1. ある 2. ない	円	自分や家族用の買い物 自分用のおみやげ品も含みます
	おみやげ品の購入	1. ある 2. ない	円	家族・友人・職場へのおみやげ品
観光	観光体験、施設入場料、日帰り温泉など	1. ある 2. ない	円	各種体験、工場見学、水中遊覧船、映画、カラオケなどの料金
スポーツ	ゴルフ、パークゴルフ、テニス等のプレー料金	1. ある 2. ない	円	一人あたりのプレー料金 バック料金に含まれる場合は「バック」と記入
自然	登山、自然散策、キャンプ	1. ある 2. ない	円	ガイド付きの自然散策料金、キャンプ場利用料金など
その他	具体的に	1. ある 2. ない	円	具体的な支出内容を記載してください
千歳市内の支払金額の合計			円	内訳は不明だが、合計金額の概算がわかる場合に記載してください

問13.パッケージツアーの料金(旅行代理店やインターネット上の予約サービスで、パッケージツアーやフリープランを申し込んだ方のみお答えください)

【問13-1.1人あたりのパッケージツアー料金はいくらですか?】約円

※割引クーポンなどを適用している場合は、割引後の金額を記入し、問13-2で「1.利用した」に○をつけてください。

【問13-2.割引クーポンを利用しましたか。】

- 1.利用した 2.利用していない

【問13-3.パッケージツアーの料金に含まれている費用をお答え下さい。(含まれるもの全てに○)】

- 1.航空機など北海道までの移動費用 2.JR・バス等の北海道内の移動費用
3.レンタカー利用料 4.宿泊費
5.飲食費 6.入場料・施設利用料
7.ゴルフ・スキー・アウトドア体験料金 8.その他()

問14.千歳市への再来訪(観光目的)の意向についてお答えください。

- 1.また必ず来たい 2.機会があれば来たい 3.来ないかもしれない 4.来たくない

問15.今後、千歳市の観光を促進するにあたって、どのような点に力を入れれば魅力が高まると
思いますか。(3つ以内に○)

- 1.観光情報全般に関する情報発信の強化 2.観光案内窓口の充実
3.観光やスポーツのイベント・行事の拡充 4.体験プログラムの拡充
5.観光施設や商業施設の充実 6.宿泊施設の充実
7.無料Wi-Fiエリアの拡大 8.施設における言語対応の充実
9.地元お土産品など買い物環境の充実 10.交通案内標識や看板等の整備
11.おもてなし意識を感じられるための工夫 12.その他()

問16.千歳市の観光について、良かった点、悪かった点、要望等のご意見を自由にお書きください。

《《 以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。 》》

○千歳市観光振興プラン懇話会委員

NO	業種・分野	氏名	所属
1	旅行業	堤 かほり(～R4.3.31) 及川 伸一(R4.4.1～)	株式会社ノース・スター・トラベル
2	運輸業	納谷 達也	有限会社ウィングサービス
3	運輸業	梅元 恭平	新千歳空港レンタカー協議会
4	宿泊サービス業	金子 正子	一般社団法人千歳観光連盟 ホテル宿泊部会
5	観光団体	川崎 孝利	支笏湖温泉旅館組合
6	観光団体	太田 康裕	一般社団法人千歳観光連盟
7	観光団体	佐々木 智秀	一般社団法人千歳観光連盟
8	産業経済団体	大窪 崇文	千歳商工会議所
9	産業経済団体	南雲 勇次	千歳市商店街振興組合連合会
10	農業・交流推進団体	南 里奈	千歳市グリーン・ツーリズム連絡協議会
11	行政機関	山崎 大輔(～R4.3.31) 田島 秀一郎(R4.4.1～)	環境省北海道地方環境事務所 支笏洞爺国立公園管理事務所
12	支笏湖地区観光振興団体	松澤 直紀	一般社団法人国立公園支笏湖運営協議会
13	学識経験者	遠藤 正	北海道大学観光学高等研究センター
14	その他の団体	秦 由基	千歳消費者協会
15	その他の団体	加藤 寛志	千歳バーガー協議会

(敬称略)

○前計画の個別施策の取組結果

1.支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと情報発信

施策展開	取組名	実施	備考
(1) 支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと環境整備			
①支笏湖地区の自然の魅力を体感する機会の提供	多彩な体験メニューと商品づくり《重点》	前期	ビジターセンターのふれあい行事
	四季折々のイベントの魅力拡充とPR	前期	氷濤まつり、湖水まつり、紅葉まつり
	温泉湯めぐり手形の促進	前期	支笏湖温泉湯巡り手形で温泉三昧(2010年宿泊プラン)
②支笏湖地区の地域資源を生かした食の魅力向上	ご当地グルメの定着・普及	前期	支笏湖チップ
	ヒメマスなどを活用した食の発掘等	前期	魚醬「姫しずく」
	支笏湖産ヒメマスのブランド形成	後期	急速冷凍庫の購入・地域商標登録の申請
③支笏湖地区の受入れ体制の充実	地元発旅行商品の企画販売等を行う担い手育成《重点》	前期	個人・小グループのニーズに特化した地元発の商品づくりとPR
	支笏湖地区の魅力を伝える案内体制の整備《重点》	前期	ビジターセンターガイド(外国人対応含む)
④支笏湖地区の環境整備	新たな泉源開発《重点》	前期	2014年から新泉源(第2泉源)により配湯開始
	ヒメマスの安定供給に向けた施設の整備《重点》	前期	2014年ヒメマスふ化場新設、その後の防波堤や導水管の整備
	苔の洞門のあり方の検討	前期	2014年大雨災害により閉鎖、石狩森林管理署へ返地決定
	キャンプ場の環境整備	前期	指定管理者(2006年導入)による管理
	高速通信網の整備促進	後期	2018年支笏湖畔光回線開通
	解説看板・誘導案内板等の整備	後期	環境省、支笏湖園地再整備
	清潔で美しい観光地づくりに向けた美化活動の促進	前期	国道453号(ヨゴサン)運動への参画
	ポロピナイ園地の整備	前期	2008年キャンプ場閉鎖、2014年土砂崩れポロピナイカンパニー
(2) 千歳観光をけん引する支笏湖地区の効果的な情報発信			
①支笏湖地区の誘致宣伝活動の推進	組織力を生かした誘致宣伝活動の展開《重点》	前期	支笏湖温泉旅館組合
	地元発旅行商品の企画販売等を行う担い手育成(再掲)	前期	個人・小グループのニーズに特化した地元発の商品づくりとPR
②支笏湖地区に特化したPRツールの充実	地元発旅行商品の企画販売等を行う担い手育成《重点》	前期	個人・小グループのニーズに特化した地元発の商品づくりとPR
	地域をPRするマスコットキャラクターづくり	後期	ゆるキャラづくり、市公認無し

2.観光資源の発掘と有効活用

施策展開	取組名	実施	備考
(1) 観光資源の発掘と魅力増進			
①市街地の空間整備による観光の魅力向上	道の駅の魅力向上《重点》	前期	2015年リニューアル
	千歳川の魅力向上と有効活用《重点》	前期	インディアン水車、名水ふれあい公園、サケのふるさと千歳水族館
②観光資源の発掘と整理・活用	観光資源データベースの構築と活用《重点》	前期	市ホームページの充実、画像・動画掲載
	千歳市内外から見た観光資源の発掘と活用	前期	広域観光、モニター、アンケート
(2) 潜在メニューの充実			
①グリーンツーリズムの促進	周辺市町村との連携による農業体験等の受入れ	前期	インバウンドの受入れ、種まき・苗植え・収穫体験
	個人観光客向けサービスの充実	前期	インバウンドの受け入れ
	千歳市グリーン・ツーリズム連絡協議会との連携	前期	体験型観光、食農教育
	グリーンツーリズムの普及啓発	前期	教育旅行、直売所・レストランのPR
②産業観光、エコツーリズム、その他のニューツーリズムの促進	多様化するニューツーリズムに対応するための連携強化	前期	産業観光、エコツーリズム、スポーツツーリズム、歴史文化ツーリズム
	市内宿泊施設や飲食店等との連携強化	前期	宿泊部会設立、ちとせ割
③コンベンション機能の充実	コンベンションなどの受入環境の充実	後期	大規模ホテル、千歳科学技術大学、スポーツ大会・合宿
	アフターコンベンションの充実	後期	参加者の宿泊・飲食等の消費
(3) 食の魅力づくり			
①地域に根ざした食材やメニューの発掘と活用	千歳ならではの食の発掘とPR《重点》	前期	支笏湖チップ、ハスカップ、千歳バーガー(鶏卵)
(4) 市内外の観光資源を結ぶ観光ルート、コースづくり			
①市域内の回遊性向上を意識した多彩な観光モデルコースの設定	地元発旅行商品の企画開発に向けた組織づくり《重点》	前期	大手旅行代理店に依存せず、地元自ら商品づくり
	千歳の歴史やストーリー性に着目した多彩なコースづくり	前期	支笏湖、市街地、農村の3地区を結び付けたコースづくり
	市街地を散策するコースづくり	前期	まちなか歩き
②交通アクセスや宿泊施設集積などの優位性を生かした広域観光ルートづくり	空港や支笏湖を起点とした広域観光ルートづくり	前期	札幌小樽、富良野、道東、洞爺ニセコ方面へのルート
	道内市町村と連携した広域観光への対応	前期	さっぽろ連携中枢都市圏、千歳・恵庭・北広島広域観光推進協議会
③観光資源間の連動性向上	観光資源間の移動の円滑化に向けた取組の促進	後期	ぐるぐる千歳冬号

3.観光まちづくりとおもてなし意識の向上

施策展開	取組名	実施	備考
(1)観光案内機能の強化			
①各地点での情報提供の充実	観光客の出發・立寄り地点における情報提供の充実《重点》	前期	空港、レンタカー営業所、道の駅などにおける情報発信
②観光案内所での外国語対応の強化	各観光案内所への外国語対応スタッフの配置《重点》	前期	ビジターセンター
(2)民間事業者のサービス向上			
①接遇面における観光客の満足度向上	定期的な満足度調査の実施と事業者へのフィードバック《重点》	前期	2015年実施、2021年実施
	市内宿泊施設や飲食店等との連携強化	前期	宿泊部会設立、ちとせ割
	民間事業者を対象とした観光知識の普及	前期	観光雇用対策事業、新しい生活様式に対応した観光創出事業
	イベント参加者などに対するおもてなし意識の向上	前期	宿泊施設や体験施設での接客の高い満足度(2015年調査)の波及
(3)市民のおもてなし意識の醸成			
①「観光まちづくり」に寄与する人材の育成	観光ガイドの育成と仕組みづくり《重点》	後期	ビジターセンター
	清潔で美しい観光地づくり	前期	清掃活動や環境保護活動への参画
	千歳の歴史や自然環境について理解を深める制度の検討	前期	ちとせ・まち魅力検定後援(2012年～)
(4)外国人観光客に対応した受入れ体制の整備			
①外国人観光客の受入体制の整備と利便性の向上	外国人観光客の受入環境の充実に向けた組織づくり《重点》	前期	地域、業界における推進
	語学研修や外国人対応セミナーの開催	前期	北海道観光振興機構、地域内、業界における推進
	PRツールやメニュー表などの多言語化	前期	観光情報誌の多言語化(英語版・繁体版・簡体字版・タイ語版・韓国語版)
	外国人観光客に対応した案内看板等の整備	後期	蘭越生活館(多言語表記)
	交通機関における多言語案内	前期	北海道運輸局、北海道、民間事業者による推進
	外国人観光客に対する通訳体制の整備促進	後期	ビジターセンター
	海外発行クレジットカード等の利用可能店舗の拡充	後期	民間事業者による推進
	民泊など新たな宿泊手段についての情報収集	後期	情報収集
	高速通信網の整備促進(再掲)	前期	2019年駅周辺、支笏湖畔Wi-Fi環境整備
②観光案内所での外国語対応の強化	各観光案内所への外国語対応スタッフの配置	前期	ビジターセンター

4.魅力を効果的に伝える情報発信の継続的な実施

施策展開	取組名	実施	備考
(1)情報提供ツールの整備			
①観光パンフレット・DVDなどのPRツール拡充	PR用DVDやフォトライブラリーの整備《重点》	前期	邪神ちゃんドローブキック千歳編
	パンフレット類の内容・種類の充実	前期	年次計画に基づいた更新
	市ホームページの内容の充実	前期	「千歳の観光」専用ホームページ
(2)多様な手段による千歳観光のPR			
①千歳観光の効果的なPR	メディアや旅行者、旅行会社などへの継続的な情報発信	前期	北海道じゃらんへの掲載、地元旅行事業者との連携
	定期的な情報更新と情報提供の工夫	前期	「ちとせの観光」の情報更新、SNSの活用
	ブログ、口コミ情報などを活用した情報発信	前期	SNSの活用
	イベントなどを活用した情報発信	前期	支笏湖ブルーキャンプ
②誘致宣伝活動の強化	国内外で開催される観光物産展・商談会等への参加と支援《重点》	前期	海外トップセールス、国内百貨店等の北海道展への積極的参加
	国内外の旅行会社やメディア関係者の招へい事業の促進	前期	モニターツアー、インフルエンサー